

2013 年度夏学期

政治 I

担当:高橋直樹教授

金曜 4 限@900 番



目次

第 0 章(000) : イントロダクション-----	1
第 1 節(010) : 政治哲学(Political science)とは何か?-----	2
第 1 章(100) : 意志決定の基礎理論-----	6
第 1 節(110) : 利益関心(interest)-----	6
第 2 節(120) : 影響力(influence)の理論-----	8
第 3 節(130) : ゲーム理論-----	12
第 2 章(200) : 政治的人間の理論-----	17
第 1 節(210) : 政治人(political man)の理論-----	20
第 3 章(300) : 政治集団の理論-----	24
第 1 節(310) : 集合的選択(collective choice)の理論-----	29
第 2 節(320) : 集団理論(group theory)-----	37
第 4 章(400) : 政治社会の理論-----	42
第 1 節(410) : 新制度論(new institutionalism)-----	43
第 2 節(420) : 政治システム理論(political system)-----	48
第 3 節(430) : 構造－機能論(structural-functionalism)-----	50
第 5 章(500) : 講義を終わるにあたって-----	55



○これは 2013 年度夏学期金曜 4 限開講高橋直樹教授担当文科一類用政治 I のシケプリです。2013 年度夏学期の授業で扱った全範囲を載せています。この内容は授業と幾つもの過年度のシケプリに基づいています。授業に出ていなくても or 授業で寝てしまっても内容を理解できるようにしたつもりです。書き加えやすい様にまわりの装飾は省きました。校正はかけていますが如何せん一人での作業ですので誤りがある点があるかもしれません。誤字脱字等ございましたら是非ご一報ください。過去問に関しては他のいくつかのシケプリ及び過去問集が存在しておりますのでそちらをご利用ください。

○本シケプリは他のシケプリから複数個所にわたって転載していることをご了承ください。作者はこのシケプリの転載・注釈・複製利用を認めます。ご自由に利用してください。

○このシケプリの用紙サイズは A4 ですが、A4 コピー用紙 1 ページに 2 ページ分印刷しても十分使用に耐えうることを保証いたしますし、その方を勧めます。

○このシケプリ及び授業プリントの中で用いられる三桁の数字は百の位が章、十の位が節、一の位が課を表しています。

○参照したシケプリの中で役に立ったものは、

①2011 年度 7 組 RDSK@Q.Urah 氏製作のもの(Ultimate Political Science)

②2009 年度 10 組澤井氏製作石丸氏改作のもの(Scoring your Best in Political Science I ; 政治 I 必勝シケプリ)

③2008 年度 22 組東條氏製作のもの

④2008 年度 14 組荻原氏製作のものです。

①はカバー範囲も広く発展的内容も含まれています。テスト範囲以外のところも製作する姿勢には敬意を表します。ただ、説明が簡素で所々ある誤りが分かりにくいという欠点があります。ただ具体例などは詳しいので時間があれば目を通すことをお勧めいたします。

②は右の注釈欄が充実しています。理論の実際社会における具体例が欲しければ参照すると良いでしょう。

③はとても丁寧で分かりやすいです。非常に好意が持てる内容です。最後まで書いてある数少ないシケプリの一つです。

④は統一的かつ簡素に纏まっているにも関わらず分かりやすく完成度が高いです。全ての範囲をカバーしていないのが残念です。

○このシケプリの二次配布、複製、改変、その他の二次利用はご自由にどうぞ。

by AY(L1-4)

★★★★政治 I シケプリ★★★★

~~~~~第0章 イン트로ダクション~~~~~

①内容：現代政治学の様々な理論の紹介

②目標：基本用語や概念の理解→政治学の考え方を身につける

1. 政治学的思考法 …他の社会科学の思考法と比較してみる

(1)経済学的思考法

- ・利益(benefit)とその対として存在する費用(cost)が中心概念。
- ・利益を得る際には効率(efficiency)も考慮に入れる。

(2)社会学的思考法

- ・役割(role)を重視…人間は、個人としての実体を超え、複雑な社会の人間関係の中で複数の役割を果たしている。社会学では、この人間の役割(role)を中心に考える。
- ・帰属意識(identification)

(3)政治学的思考法

- ・政治学的思考法とは、究極的には、実力・武力に裏打ちされた強制力である権力(power)を中心に考える思考法だった。
- ・しかし、現代ではむき出しの暴力で権力を行使するのは忌避される。
- ・現代の権力はリーダーシップ(leadership)によって行使される。
- ・指導者がリーダーシップにより人々を協働 (cooperation) させる。
→公共(public)の利益(publicity)を生み出し、利益のくい違う人間及び人間集団の共生 (symbiosis)を図る。

2～4. 省略

第1節 政治科学 Political Science とは何か？

○注：政治科学＝現代政治学(Modern Politics)である(後述)

- ・ political science …事実がどうであるかを考える。WW2 後のアメリカで誕生。
- ・ politics …物事の正しさを考える。哲学と密接な関係。

○この講義では「現代政治学の理論」を取り扱う。

1. 政治学の歴史的 3 類型

(1)政治哲学(normative political science)

- ・ 古代ギリシャ以降(Plato, Aristotle など)
- ・ 「～すべき、～してはならない(must)」という規範的(normative)な事柄を扱う学問。
- ・ 理想的な状態とはどのようなものかを考える。
- ・ しかし、現実には規範に反する事実も存在する。
- ・ 規範を考えるだけでは、現実に関起っている問題(＝事実の問題)の解決にはつながっていかない。
- ・ 事実を認識した上で、どうやって規範を実行するかを考えていくことが重要。

(2)政治原理(イデオロギー)

- ・ ホッブズ、ロック、ルソーなど
- ・ 実際の、実践的(practical)な学問。現実を変えるにはどうしたらよいかを議論する。
- ・ 現実に関り添い、現実に進む政治の方向性を擁護、現実を変えようとするかまたは擁護する。
- ・ より善い政治・社会のための制度・方法を模索(方法重視)。

(3)政治科学＝現代政治学

- ・ 経験的 empirical …現実の政治を観察して複数の観察結果を得て、帰納的に法則を発見する。
- ・ あくまで人間の行動を客観的に説明することを目的としており、善悪の基準をもって行動を批判あるいは正当化することは考えない。

(4)注意すべき点

①政治哲学 → 政治イデオロギー → 政治科学、と時代の移り変わりにより単線的に移り変わってきたわけではない。この順番で生まれてはきたが、これらはすべて現在に並存している(複線的)。

②上記の分類は理念型(idealtypus; ideal type)

- ・ 現実には存在しないが、考えや学問の整理に使われる類型である。
- ・ 例えばある一つの考えが完全に政治哲学に分類される、というように言い切ることはできない。

2. 現代政治学

(1)特徴

①事実と規範の分離

- ・特定の価値観に囚われると問題解決が難しくなるので、規範の問題を保留(≠放棄)し、純粋に事実の問題だけを考えようとする。
- ・価値自由性、価値中立性
…全ての価値観から距離を置き、事象を中立的に把握する。何が正しいかには立ち入らない。
- ・決して価値の問題が重要でないと言っているわけではない。

②経験論的

- ・現実の具体的な複数の事実を観察し、その経験から法則性を導いて一般的結論を得る**帰納法**をとる。
⇔合理的思考(**演繹法**) …ある一つの真理から論理的思考により結論を出す思考法。政治哲学・政治原理はこれを用いる。

③学際性(inter-disciplinary)

- ・新しく生まれてきた学問(経済学や心理学など)は自然科学の姿勢を見習ったが、政治学は規範と事実を問題と切り離すことが難しく自然科学の姿勢を見習えなかった
→政治学は、経済学、社会学、心理学など学問分野にとらわれず幅広い分野の知識を利用することで現代政治学は自然科学的な姿勢を獲得しようとした。

(2)現代政治学の展開

①行動論革命(behavioral revolution)

- ・1950～70年代のアメリカで発生
- ・価値・制度の問題を追求していた旧来の政治学に代わり、人間観察による帰納的考察(ex.投票行動研究)を行う。
- ・規範を棚上げにし、経験のみを重視した。

⇔ラディカル左翼(極左)からの批判

- ・価値の問題を棚上げし観察するだけで、批判によって現実の政治を向上させていく力のない政治学に存在価値はない。
- ・政治を研究するのは、よりよい政治を作るためである。
→だから政治学は、現実はどう対処するか(価値の問題に関わる)が重要で、政治学には現実の政治を変える力が必要。
→それがない観察するだけの政治学は、自己満足であり価値がない。
- ・『apolitical political science(非政治的政治学)』…ラディカル左翼の反論の論文集。

- ・以後行動論主義は徐々に限界を見せていくことになる。

②新制度論(new institutionalism) cf. p43(410 台)、p46(415)

a. 保守派からの批判＝合理的制度論

- ・行動論は人間の自由意思・選択を前提としているが、実際には人間は社面で拘束されている。
- 人間の合理性をあてにし、人間の行動を縛る規制を撤廃して活性化を模会の規則・慣習(まとめて「制度 (institution)」と呼ぶ)によって自由意思に基づく行動をあらゆる索する。
- 規制緩和、自由化推進。市場主義。

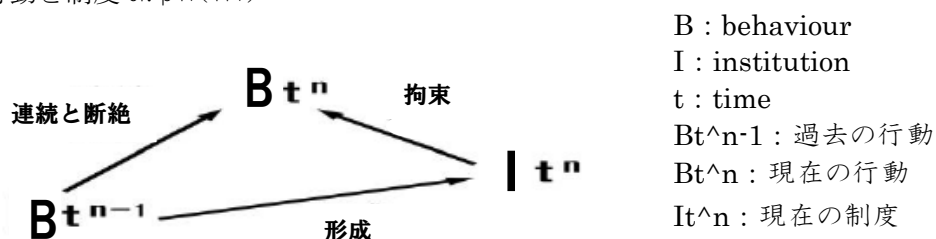
b. リベラル左翼からの批判＝歴史的制度論

- ・過去の失敗の反省から形成されてきた制度にはそれを制定した歴史的意味があるはずだから、歴史を検討し、その制度が現在も有用なものなのか、時代を超えて普遍的価値をもつものなのか考えていくべきだ。
- ・制度は確かに人間の自由を縛るものだが、制度をなくしたからといって必ずしも良い結果になるとは限らない。短期的には制度は束縛に見えるかもしれないが、そこには飛びつかず、その制度がもはや不要かそれとも普遍的価値を持つかを検討すべき。
- 規制緩和、自由化に慎重。

※新制度論はポスト行動主義であり、behavioralism の否定ではない(post…「経験した」の意に近い)。

→behavioralism の批判として生まれ、その後のあり方を検討、則ち行動主義を踏襲した議論。

③行動と制度 cf. p47(417)



- ・基本的には過去の行動と現在の行動は連続するが、たまには断絶するときもある。
- ・過去の行動が現在の制度を形作り、その制度が現在の行動を束縛する。

(3)注意すべき点

①一つの体系ではない

- ・ある一つの体系を持った「政治学」というものが存在するわけではなく、一定の傾向を持った学問の総称。意見・視点は研究者によって大きく異なる。
- ・一つの体系になっているのは近代経済学などである。

②科学の客観性・価値中立性に対する疑問 …参考：T. S.クーン『科学革命の構造』

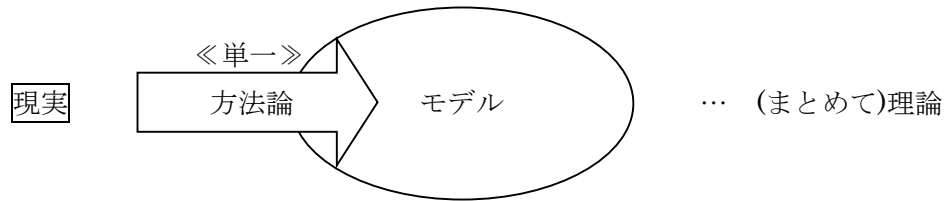
- ・科学における「真理」はその時々の方の考え方の枠組み(paradigm)によって限界づけられている。
- ・学問が特定のイデオロギーの支配を受けることは避けられない。

→科学自体も価値中立性があるのかどうかは疑わしい。

3. 注釈－理論の2分類

(1)モデル(model) …複雑な現実の中で特徴のあるものを抜き出して簡略化したもの。

(2)方法論(methodology) …モデルを作るための理論。何の特徴を保持し、捨てるかを考える。



~~~~~第1章 意志決定の基礎理論~~~~~

☆「意思決定」と「意志決定」は現在どちらも学術的に使用されているようですが、授業プリントとこのシケプリでは「意志決定」に統一されています。

第1節 利益関心(interest)

1. 概念

(1)基本的な考え方

$$D = f(Ir)$$

D : decision making(意志決定)

Ir : interest(利益関心)

- ・行為者(actor) …その人・集団の行動する部分のみを取り出した抽象的存在としての人間
- ・行動の意志決定の背後には利益関心がある。逆にある人の interest を見れば意志決定が類推できる。
- ・ある actor はその合理的な利益関心によって意志決定をし、行動する。

(2)利益関心(interest)

①具体的に「得になる」もの

- ・金(経済的利益)だけでなく、心理的充足・社会的安定なども含む。

②「注意や関心を引き付ける」もの

- ・義務感、使命感など、心理的 interest.
- ・得にはならないことでも命を懸けて主張する人もいる。
- ・利益集団(interest group) …政治に働きかけると**圧力集団(pressure group)** cf. p37~(320 台)
→市民運動(自分たちのためになることを主張)
→最近直接自分らの利益に結びつかないが、正しいと信じることを主張する集団に。
= **提唱集団・主張集団(advocacy group)** (ex.グリーンピース)

(3)合理的(rational)

○rational …「理性」にしたがって行動すること。人間は合理的であることを前提として考えてきたし、今でもそうである。

①[哲学的意味]…本能や衝動に左右されず、思慮・分別に基づいて行動する能力

②[科学的意味]…実現したい目的に対して最も適切な手段をとる能力

→**目的合理性**：ある与えられた目的に対し最短経路をとるように振る舞う。

合理的であることが他人に対して説明できる。

2. 歴史的源泉

(1)「人間」の合理性 cf. 17(201)

①中世キリスト教

- ・神は絶対者で無謬(絶対に誤ちを犯さない存在)であり、最高の理性をもつ。
- ・人間は子羊、牧者(神)に導かれる存在。人間に理性はなく、神に従うというだけの理性を持つ。

②近代の人間観 … 神学から離れて人間を考えるようになった。

- ・ **John Locke** (1632-1704) cf. p29(331a)

…人間は神より下にあるが、神に頼らないで生きていける存在である。

人間は誤るが、その誤りを正し繰り返さない理性は持っている。

⇒**自己決定的人間観**(これが近代の人間観) …人間は自己の独立した判断で行動できる。

(2)利益の考え方

○人間は自己の損得を考えて行動する、という考え方で、ルネサンス期以降に生まれてきた。

○利益・欲望を肯定しあるがままの人間の姿を受容→私益追求の肯定

①Machiavelli マキャベリ(1469-1527) ex.『君主論』(中央公論社)

- ・人間の本質は野心と食欲。
 - ・「人間は恐れているものより愛しているものを容赦なく傷つけるものだ。なぜなら人間は元来邪悪だからだ。単に恩義の絆でつながれている愛情などは自分の利害がからむ時はすぐに断ち切れてしまう。ただ恐れているものには処刑の恐怖の鎖で縛られているから決して見殺しにはしない」
 - ・「恩義の絆でつながれた愛情など、自分の利害が絡めばすぐ断ち切られるものだ。だが恐れている者に対しては処刑の恐怖に縛られるので決して見殺しにはしない」
- 自らの生命(処刑の恐怖)>利害>恩義(愛情)

②J. Bentham (1748-1832) cf. p29(331a)

- ・近代功利主義(utilitarianism)
- ・人間の幸福とは快樂があり、苦しみがないことで、人は幸福の増大を目的として行動する。

第2節 影響力(influence)の理論

○基本的な考え方

- ・各 actor には、それぞれの interest がある。
- ・ある actor は、自分の interest に従って他の actor の行動を変えようとする。

$$D = f(Ir, If)$$

D=decision making(意志決定)

Ir=interest(利益関心)

If=influence(影響力)

- ・actor は自分の interest に従って、他の actor に influence を与える。
- ・行為者は、自らの interest と、影響を与える人の interest に従って D をする。

1. 概念

○actor を X,A として、X がやりたいことを x、A がやりたいことを a と置く。

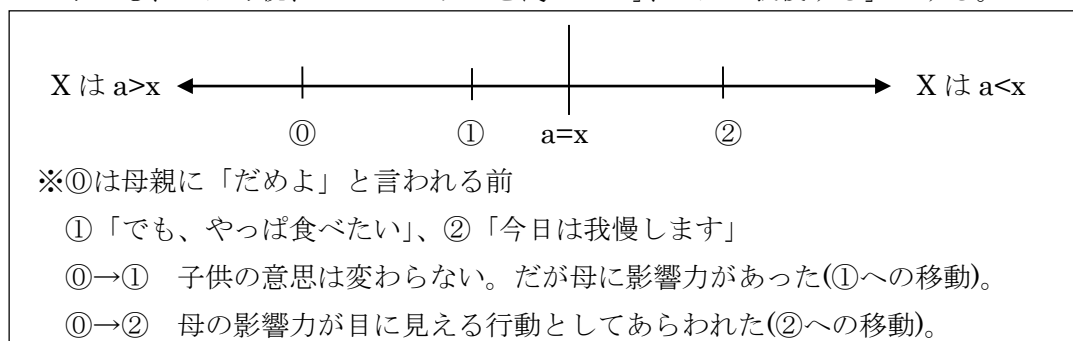
X -----influence-----> A

①関係

- ・X と A の関係によって、X が A に影響力を持つか持たないかが決まる。
- 影響力は一種の関係によって働くもので、実体ではなく機能である。

②位置や気持ちの変化 … これも影響力たりえる。

- ・X が子ども、A は母親、a が「プリンを食べたい」、x は「我慢する」とする。



(1)影響力の定義

- ①影響力は、行動や意志決定を変えることの**程度**として表れる。
- ②意志決定は、目に見える行動だけでなく**感情や態度(attitude)**も含む。

(2)影響力を考えるための補助概念

①領域(domain)

- ・どういう人、どれくらいの数の人に対して影響力を持つか。

②視野範囲(scope)

- ・どんな事柄に関しての影響力を持つか。(10 年まで訳語は「範囲」、11 年は「視野」)
- ・意図的に曲げて使用されるときもある(ある分野でのあり方を他分野に転用)
ex. 居酒屋経営→コメンテーター、芸人→政治家

③政治資源(political resource)

- ・影響力を行使するために使うことのできる手段。
- ・例：金、物理的暴力、愛、哲学、心理、名声など

④確実性(reliability)

- ・どれくらい確実に影響力を行使できるか(どの程度、何回に一回の割合で)
- ・例：100 万円要求したら 50 万円払ってくれるかそれとも 5 万円か。

⑤強度(strength)

- ・ある actor がどのくらい相手が嫌がっていることを相手にやらせることができるか。

⑥費用(cost)

- ・行使者が影響力を行使するために支払う犠牲。

2. 広い範囲の影響力に含まれるいくつかの概念

(1)潜在的影響力(potential influence)

- ・今は政治資源を利用していないが、利用しようと思えばできる、表面化していない影響力。

⇔ 顕在的影響力(manifest influence) …今まで見てきたもの

(2)権力(power)

- ・ある actor が影響力を受けてもそれに従わない場合、その actor に対し価値剥奪(deprivation)を及ぼせるような影響力。
- ・価値剥奪(deprivation) …ある actor が、価値のあると思っているもの(生命・財産 etc)を奪うこと。

(3)強制(coercion)

- ・影響力を受ける actor は従っても従わなくても大きな価値剥奪が生じるような影響力。
- ・例：強盗が A に対し「金を出せ。さもなくば殺す」→いずれにせよ生命或いは財産を喪失。
- ・しかし、A が自殺願望者の場合は成立しない(生命・財産の喪失が価値剥奪にならない)。

(4)権威(authority)

- ・influence を受けた actor が、それに納得して従うような影響力。
- ・納得に必要な根拠＝正統性(legitimacy)
- ・正統性…相手を完全に納得させるに足る論理的・心理的根拠。権威はこれを有する。
ex.天皇制…人々の納得に基づき成立(≠正義故に成立)
- ・legitimacy …justice, right(正義)とは異なる(納得さえあればよい)
→「正当性」より「正統性」と表記することが望ましい

3. 歴史的源泉

○歴史的には「権力」概念のほうが先で、そのあとに影響力の概念が整備された。

(1)人間社会に昔から見られた支配＝服従の事実

- ・権力が理論的にとらえられていなかった時代にも、力のある人が他の人を支配・服従させることは事実として行われてきた。

(2)実体的権力観

- ・近代物理学が発達し、それまで概念としては考えてこられなかった権力を、他者を支配する物理的・具体的(＝実体的)な「力」として説明する実体的権力観が生まれてきた。
- ・実体的権力観においては、権力の基礎(力の源泉)はどこにあるか、ということも物理学からの類推で次のようなものが考えられた。

①実力(軍事力) …マキャベリ(15C)

- ・相手を選択の余地もなく従わせる究極的理性(ultima ratio)として武力を考えた。

②血統、法律、カリスマ etc …マックス＝ウェーバー(19C)

- ・血統(伝統的支配) …君主制の根拠。
- ・法律(合法的支配) …近代国家の基礎。法律に基づいて選出された市民の代表者が法に基づいて政治を行う。
- ・カリスマ(カリスマ的支配) …他者にはない超人的な能力・素質(ex.呪術師)が支配者の要件となる。
失敗するとたやすく権力を失う。

③富(生産手段) …マルクス(19C)

- ・生産手段を持っているかどうかで権力の基礎が決まる。
- ・富める者がそれを背景に（雇用関係という形で）人々を支配する。

(3)機能的(关系的)権力観

- ・権力は実体でなく、人と人との相互関係の中で働くものとする。(もし権力が実体だったら、人と人との関係に関係なく効果を持つはずである)
- ・権力は強制力というより、人を説得し同意を得るための指導性(leadership)の色合いが強くなった。
- ・大衆主義
…これと同時に、一般大衆の行動に着目する行動論革命の影響を受け大衆主義が盛り上がった。大衆主義では、それまで為政者が一般大衆に働きかける政治的な場＝権力だけを考えていたこの理論を、一般の人々が相手に影響を与えて意志決定を変化させる全ての場に一般化した。大衆主義では誰もが他者の行動を変える力を有するとされる。

⇒機能的権力観と大衆主義が結合し、影響力の理論が成立。

4. 批判

(1) 構造的権力観からの批判

① 影響力(influence)

- ・ 様々な影響力の中で最も重要なのは「権力(power)」。
- ・ 新しい「影響力」という用語も、内容は人が人を支配する権力をオブラートで包んだもの。
- ・ influence 理論では、誰でもそれなりに影響力を持っているとする。
→ 一人一人の社会的な勢力は相殺され、社会にある程度の均衡が訪れる。

= 均衡理論(balancing theory)

- ・ だが、実際には、
 - ・ power…人の生命・財産を奪いうるもの：強
 - ・ influence…誰もが一定は有するもの：弱 → influence の下各人が均衡=均衡理論(平等・安定)

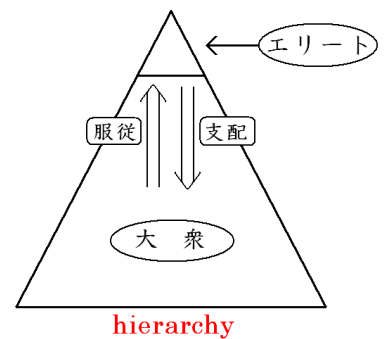
⇒ power(重大な influence)以外は効果薄い。

→ 現実には均衡のとれない case 多い。

→ 機能的権力観は現実肯定理論に過ぎないと批判。

② 機能主義(functionalism)の立場は誤り

- ・ 権力は実体で少数のエリートが権力を握っていると主張。
- ・ 社会の構造はしっかりと決まっていて不変というのが正しく、権力は人と人との関係というのは誤り。
- ・ 権力とは人々の中で相対的に決まるものではなく、厳然として社会の中に存在するものであり、実体的なものとしてとらえたほうがより適切であるといえる。
- ・ 参考：C.W.ミルズ『パワー・エリート power elite』
…現実世界は政界=官界、軍事界、産業界の3種類の power elite が牛耳っている。



(2) 相互作用論 interactionism からの批判

① 本当の機能主義であるか？

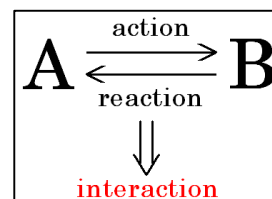
- ・ influence 理論では影響力は一方的に行使されるとして reaction を無視しており、機能主義として不十分。

→ 影響力の理論は権力論(power theory)の焼き直しに過ぎない。

② 作用(action)と反作用(reaction)

- ・ 実際は影響力を及ぼした行為者Xも、行為者Aからの反応(reaction)を受けて、その意志決定を変える相互作用(interaction)が起こっているはずである。影響力の理論は、物事を一方向的にしか見ない不完全な理論である。

<u>interactionism</u>	<u>influenceの理論</u>
leader \longleftrightarrow follower	leader $\leftarrow \dots \rightarrow$ follower
どちらも考察	一方的では？



第3節 ゲーム理論 …代表的な意志決定理論の一つ。数学が源。

1. 起源

(1)直接的起源

- ①室内ゲーム(トランプ,チェス etc.)をモデル ※確率論はギャンブルから発展
- ②前提…限定的(予め設定された状況において考察)
 - ・二人以上の行為者(actor)=競技者(player)と呼ぶ。
 - ・それぞれの player の利益は相反する。
 - ・player はすべて自分の利益を増やすために、合理的な意志決定をする。

(2)思想的起源

- ①マキャベリの政治理論との共通点(マキャベリの理論が起源ではない)
 - ・現実を重視しそれを活かすことを考える
 - ・所与の状況(situation)が前提
 - ・一定の状況での利益の最大化を目指す
 - ・状況を自分に有利なように変える：状況の操作を行う→技術論的
- ②合理的人間観
 - …player は自分から負けることは想定せず、勝ちを求め合理的に行動する。

2. 考え方

(1)player は合理的計算を基に利益獲得に向かい意志決定を行う

(2)利益

- ・ player の利益は無限には増やせない
- ・ゲームの状況(主に次の3つ)によって制約。その制約の中でどれだけ自らの利益を最大化するか
 - a.他の player の利益がどうなっているか。
 - b.ゲームの条件(種類)…player の数、player の利益が相反するか
 - c.解き方…player 同士が敵対するか協力するか

○ゲーム理論を数式化すると、

D=decision making 意志決定

$$D=f(Ir,St)$$

Ir=interest 利益

St=situation 状況

○ゲーム理論は状況と人数によりいくつかの形に分けられる。

3. 二人一定和ゲーム

(1)ゲーム例 1

player…A、B

A が百円玉を右か左に握る。B がどちらの手に百円玉があるかあてる。

あたり→A が B に百円をあげる(A が百円損、B が百円得)

はずれ→B が A に百円をあげる(B が百円損、A が百円得)

※この場合の百円の得を、ゲーム理論では利益ではなく**利得:pay off** というコトバを使う。

A…右に持つか、左に持つかの strategy 戦略
B…右を選ぶか、左を選ぶかの strategy 戦略 } を持つ。

利得行列 1 (※player のすべての利得を行と列に整理…**payoff matrix:利得行列**)

player		B			
A	strategy	右		左	
	右	-100	100	100	-100
		100	-100	-100	100
	左	100	-100	-100	100

・このゲームの条件は、

① 2 人ゲーム

②一定和ゲーム…4 つの枠の中の利得の和が全て同じ。

特にこのゲームは**ゼロ和(zero sum)ゲーム**。勝たなければ負けるシビアなゲーム。

(2)ゲーム例 2

player…A、B (A…名探偵、B…連続殺人犯)

A の strategy { a₁…国内で指名手配
a₂…現場張り込み罠をかける

B の strategy { b₁…対決
b₂…海外逃亡

利得行列 2

player		B			
A	strategy	b1		b2	
	a1	2	-2	3	-1
		7	-5	2	0
	a2	7	-5	2	0

・失敗した場合に最大利益を持つのは、A—a1、B—b2

→A にとっての**優越戦略(dominant strategy)**は a1、B にとっての優越戦略は b2。

→「このゲームは (a1,b2) で解ける」という。これが**鞍点:saddle point**である。

(乗馬の鞍でちょうどお尻が落ち着く点、から転用)

・上記の優越戦略は、失敗した時→最大利得、という順で考えるため、**ミニ・マックス戦略:mini-max strategy** と呼ばれる。ここでは想定される最大の損害が最小になるように決断される。

・想定される最小の利益が最大になるように決断を行う **maxmin strategy** もある。

4. 二人非一定和ゲーム

(1) ゲーム例 3

player...A、B (A、Bは北関東のある県の対立している暴走族の頭で両者が決闘を行う)
 対決方法...離れた位置からAとBが向かい合い、センターライン上にバイクを走らせる。

A、Bの strategy $\begin{cases} a_1, b_1 \cdots \text{よけない} \\ a_2, b_2 \cdots \text{よける} \end{cases}$

利得行列 3...弱気になった方が負ける弱虫(chicken)ゲーム

player		B			
A	strategy	b1		b2	
	a1	-10		5	
		-10		-5	
	a2	-5		-1	
5			-1		

- ・(a1,b1)は両者即死、(a2,b2)は両者メンツを失うため-1。
- ・冷戦中の米ソ核戦争がこれに近い。この場合は a1,b1 が核戦争、a2,b2 が軍縮、ともいえる。

(2) ゲーム例 4

player...A、B(A、Bは囚人で取り調べ中。だが犯行の物証はない)
 ※司法取引の制度があり、共犯の証言をすれば先にその自白を行った方は罪が軽くなるとする。

A、Bの strategy $\begin{cases} a_1, b_1 \text{ 黙秘する。} \\ a_2, b_2 \text{ 自白する} \rightarrow \text{先に自白した方の罪が軽くなる。} \end{cases}$

利得行列 4(囚人のジレンマ prisoners' dilemma)

player		B			
A	strategy	b1		b2	
	a1	10	10	-5	15
	a2	15	-5	0	0

- ・これには解き方が2種類ある。
 - ①非協力ゲーム(uncooperational game)...player が敵対している、個人が合理性を貫くと考え
 →解は (a2, b2) となり、利得は最低となる。
 - ②協力ゲーム(cooperational game)...player が協力する、集団としての合理性追求すると考える
 →解は (a1, b1) となり、最高の利得を得られる。
- ・player は、相手を信じるべきか否かでずっと悩み続けることとなる。

5. N人非一定和ゲーム ($N \in \mathbb{N}$ なので二人でも成り立つ)

○ゲーム例 5

player …3人(A, B, C)の委員会で多数決をとる。

Strategy はそれぞれ 3 通り

$$\begin{cases} k \cdots \text{法案} \\ s \cdots \text{修正法案} \\ g \cdots \text{現状維持} \end{cases}$$

利得行列 5 (この形の表を標準形: normal form という)

		payoff		
	strategy	h	s	g
player	A	10	4	0
	B	0	8	6
	C	5	0	9

- 多数決だから非協力ゲームでは解けない→協力ゲームで解かないと解がない。
- **coalition 連合**(結託) …player の間の協力関係
- 連合の組み合わせ …計 5 通り
 - ① 三人ばらばら … A/B/C の 1 通り → 何も決まらない
 - ② 2 人の連合 … A-B/C B-C/A C-A/B の 3 通り
 - ③ 3 人の連合 … A-B-C の 1 通り
- **最小勝利連合 minimum winning coalition** …この場合②だけ考えれば良い。
 - ※①は解なし、③は**過大規模連合**であり利得の分配が少なくなるから。
 - 合理的に考えるなら、最小勝利連合を考える。

(1)特性関数 characteristic function …その連合の力で獲得できる利得の量を表す関数

$$\begin{cases} Pa+Pb=4+8=12 & \leftarrow \text{その連合での maximam の値} \quad \therefore A-B \text{ は } s \text{ という戦略を採用} \\ Pb+Pc=6+9=15 & \leftarrow \text{payoff}(BC)=15 \text{ と同値} \\ Pa+Pc=10+5=15 \end{cases}$$

- よって、A と B の連合は合理的ならとられない、B と C、A と C の連合の最大利得が等しい為
コアは定まらない。
- 上の表は、B と C、C と A の連合だけを考えれば良い。

※利得行列を書くものを**標準形**、 $P=(A,B)$ と表すものを**特性形**、A と B の連合と書くものを**特性関数形**という。

(2)コア core

- N 人ゲームで、
 - ① ある戦略、又はいくつかの戦略の組み合わせによって得られる
 - ② 他のどんな連合によっても優越されない
- 利得の組み合わせ。

利得行列 6

		payoff		
	strategy	h	s	g
player	A	10	4	5
	B	0	5	6
	C	5	3	4

・特性関数

$$P(\underline{A}\underline{B}) = 11 \quad \dots \textcircled{1}$$

$$P(\underline{B}\underline{C}) = 10 \quad \dots \textcircled{2}$$

$$P(\underline{C}\underline{A}) = 15 \quad \dots \textcircled{3} \quad \leftarrow \text{これがコア}$$

$$\rightarrow Ph(\underline{C}\underline{A}) > Pg(\underline{A}\underline{B}) > Ps(\underline{B}\underline{C})$$

利得行列 7 …コアのない N 人ゲーム

		payoff		
	strategy	h	s	g
player	A	10	5	4
	B	0	10	6
	C	5	0	4

・邪魔(block) … $Ph(\underline{C}\underline{A}) \Leftrightarrow Ps(\underline{A}\underline{B})$ A が B と組むか C と組むかで利得が等しくコアがない。

6. 批判

(1) 利得の数量化 … どうやって利得として数量化するか

- ・条件① 価値が一元化されること(すべてのものが一つの物差しで測れる)
- ・条件② 一元された価値が測定可能であること(その物差しに目盛がないと測れない)
→客観的な価値尺度が得られるか

(2) 認知と通信の問題

① **認知 cognition** … 自分が感覚したことを、その意味まで理解すること

- ・完全情報ゲーム … ゲームに関する情報が全て分かっているゲーム(\Leftrightarrow 不完全情報ゲーム)
- ・実際には大部分が不完全情報ゲームである。人間はゲーム理論ほど正確に現実を認識していない

② **通信 communication**

- ・player の関係は、現実では 100% 協力・非協力の状態ではなく、中間領域で動く。
- ・お互いの strategy のやりとり
- ・囚人のジレンマ … 二人の communication が断絶された状況でも、二人の心は揺れ動く。

(3) 合理性 rationality の問題 ←最も本質的な問題

- ・そもそも、player が不合理だとゲーム理論は成立しない。
- ・人間活動は必ずしも合理的とは限らない。

~~~~~第2章 政治的人間の理論~~~~~

1. 人間の考え方の展開 cf. p7(112)

(1)18世紀まで(近代以前)

①中世キリスト教的人間観

- ・人間は神の似姿。
- ・人間は他の動物よりは神に近く、神の理性に頼れば人は過たずに生きてゆける。

②ロックの人間観

- ・自己決定的人間 ←自分の理性による。人間を他の動物と峻別。

[神 人間]	//	動物
------------	----	----

(2) C.Darwin ダーウィン …『the origin of species』(1859)

- ・進化論(evolutionalism) …動物が人間の先祖。キリスト教と根本的に矛盾。
- ・人間と動物の間の壁が取り払われてくる。

→しかしながら「精神」的側面において人間を他の動物と峻別(合理的思考が可能であるという面で)

×	人間	精神的な違い	動物
---	----	--------	----

(3) S.Freud フロイト

- ・非合理的 (irrationality) …人間は表向き理性的だが、心の中には非合理的なもの(本能・衝動)がある。

×	[人間	動物]
---	------	------

2. フロイトの人間観

(1)心の構造

①イド(羅 id ; 英 it)

- ・人間が生まれつき持っている衝動・欲動(drive)、本能(impulse)
- ・欲求の充足を求めて動く力
- ・2つの基本衝動
 - a.エロス(eros)…生、性、自己保存の本能、一番重要な衝動でイドを動かす。
eros を背後で動かしている力=リビドー(libido)
 - b.死の本能(death instinct)…死、破壊や消滅を目指す本能。eros と正反対に働く。
死の本能を動かす力=サマトス(thamatos)

②自我(ego / self)

- ・イドの中で、外の世界と接触する部分が発達したもの。
- ・様々な衝動を control して外界に働きかける。

・様々な働き

a.意識的機能 …知覚、記憶、学習から経験則として発達。自分自身で分かっている働き。

b.無意識的機能

・イドからの欲求を満たしたいが充足しない

・超自我からの命令を守りたいけど未達成

⇒これらの不履行となる状況は自我を傷つけるので、無意識的な働きで自我を守る**自我防衛**がなされる。

※トラウマ …意識されないものは自己を傷つけない為無意識的に過去の記憶を遮断している。

③超自我 superego

・社会の倫理的基準が内面化したもの。社会により異なる(ex. 時間を守る、路上に唾吐く)
道徳的態度、良心、罪悪感など

・二つの働き

a.批判的機能 …自分で自分の行動を批判。ex.課題から逃げる自分に罪悪感・良心の呵責を感じる

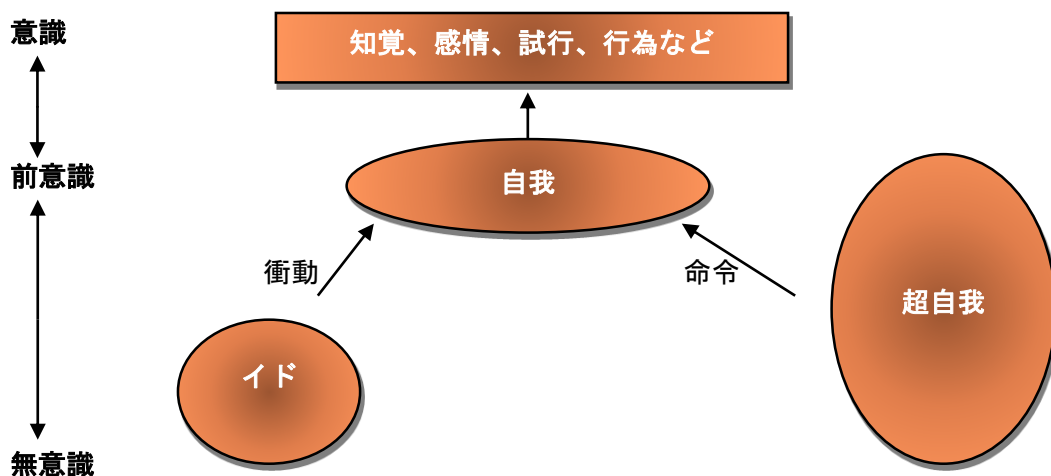
b.自我理想(理想我) …理想の自分を設定してそれに向かって努力し、自我をイドの衝動から守る。

「自分はこうなりたいから、これは我慢しよう」といったかんじ。

(2)心の働き

意識(conscious) ⇔ 無意識(unconscious)		
= 前意識(preconscious) ⇔ 無意識		
知覚	← ← ← ← 自我 → → → →	イド
	← ← ← ← ← 超自我 → → → → →	

(3)心の働きと構造(1+2)



(4)その他の重要概念

①外傷 **trauma**

- ・心理的に大きな傷を与える記憶・経験。あまりに大きいので個人で処理できない。
→抑圧、無意識のうちに抑圧される

②防衛機構 **defense mechanism**

- 自我はイドからの衝動を抑えると不安が生じる。
 - 自我は超自我からの命令で罪悪感を覚える。
- これらからの防衛をはかる。

a.抑圧 **depression** …外に出さないように抑えつけ無意識に追いやる。

b.置き換え **displacement** …抑圧された欲求を、別の対象に向かわせることで欲求を充足させる。

c.反動形成 **reaction formation**

…自我の認めることのできない感情を、正反対の形に変化させて表出。

ex.両親に憎しみの感情を抱いているが、親に従順な子としてふるまう

d.隔離 **isolation** …出来事・事実から感情を引き離してしまう。

→他人事のように感情を引き離して記憶。

e.同一視 **identification**

- ・対象と自分が同じものだとして対象を自分の内に取り入れ、それと同じように行動する。
- ・例：自分の為ではなく祖国の為に戦うのだ！と考える(自らと祖国を同一化する)ことにより自我が傷つかずに済む。

f.合理化 **rationalization**

- ・自分の状況・行為を正当化するため、まっとうな理由や社会的に認められる理由を作り、真の理由に代えて自分が傷つくのを防ぐ
- ・例：「sour grape の論理」(イソップ物語)

ある晴れた日、くいしんぼうのきつねさんが歩いていると、木の上におぶどうがなっていました。手を伸ばしても届きません。どうやっても届きません。きつねさんは去り際に捨て台詞を吐きました。「あのぶどうは、すっぱいに決まっているさ」

→本当の理由=届かない but 認めると自我が傷つく

→「酸っぱいに決まっている」と正当化

第1節 政治人 political man の理論

by H.D.Lasswell ラスウェル(ラズウェル)

(1)H.D.Lasswell について

…アメリカ行動論的政治学の創始者のひとり。

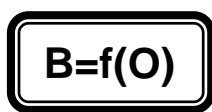
初めてフロイトの精神分析理論(非合理的な人間の考え方)を政治理論に導入。

『権力と人間』“Power and Personality” (1948)

(2)政治人の理論と人間行動

…局面ごとではなく、普段の行動まで全体として考える。人間の**非合理性・本能**を強調。

その人の**本能**によってその人の行動は説明できる、とする。



B=Behavior 行動

O=organism 生活体(動物から人間までの、複雑な反応をするもの。
非合理的側面も含む全て)

1. 政治人の概念

(1)「政治」「人」の考え方

①「人」…人間の活動の一側面(≠具体的な人間)

cf) アダム＝スミス「経済人」…経済活動をする時の人間は全て経済人

②政治…制度および機構。一見政治と無縁でも政治的なものはある。

ex. クラブ活動での意見の対立、説得、意志統一

(2)社会観

①定義

・社会において人間は**資源(resource)**に基づき**制度(institution)**を通じて**価値(value)**を追求する。

②説明

・資源(resource)…価値を手に入れるための手段。だが、resource がないと value は得られない。
金、時間、知識 etc

・制度 institution…定型化された行動様式

ex. 日本において知識を得る方法

→8c:命がけで唐に渡る→18c:寺子屋に行く→21c:大学へ行く

cf. 制度は以下のように登山に例えられる(山の頂上に価値が存在するとする)

昔:試行錯誤しながら登山(いくら資源を用いても価値が得られるとは限らない)

→その山に登山ルートが形成→先人たちの道を辿れば十分

→価値を手に入れるための定式化された行動(=制度)が形成。これにより以前より簡単に知識を手に入れられる。

・価値 value

…自分が望ましいと考えるもの。人によって違う。価値は制度の中に分配されている。

制度	価値
ビジネス	富
専門職・職人	技術
病院	健康
家庭	愛情
政治	権力(power)

←人間は power を求めて政治に入る。

③概念

・「政治人 political man」…他の人々と比較した上で、様々な価値の中で特に権力という価値を重視する人間。

2. 政治人の定義

$$P(\text{政治人}) = p \} d \} r$$

○説明

① p : private motive 個人的な動機

…とくに幼少期の家庭環境。中でもラスウェルが重視したのは父への憎悪。

ex. oedipus complex (edipus complex) エディプス・コンプレックス

※ギリシャ神話 オイディプス王 (エディプス・コンプレックスの元ネタ)

オイディプスは王の子として生まれる。彼は赤ん坊の時次のような予言を受ける「災いが及ぶから、はやくその子を殺しなさい」。王は従者に彼を殺すよう命令。だが従者はかわいそうに思って彼を洞窟に匿い、後に知人が預かって育てる。

オイディプスはたくましい青年に成長。ある日老人の操る馬車が「どけ」と言いながら彼に向かって疾走してくる。彼は気位が高いのでどかない。老人は馬車を止めざるを得ない。老人は止まって鞭で彼を打つ。彼は逆ギレして老人の鞭をとりあげて争い、老人を殺してしまう。実はその老人がオイディプスの実の父であり、王であったのだが、彼はまだ知らない。

その後、町に行き「王が死んだ」と知る。予言者が「若い旅行者が来るから王にしろ」と言い、オイディプスが王になる。だが彼は王の資格がない(と思われていた)ため、先王の妻(実はオイディプスの実の母)と結婚することで王の資格を得る。すると、さまざまな災いが起こる。予言者は「王が過ちを犯した」と言う。彼は身に覚えがなかったが、赤ん坊の頃彼の命を助けた元従者の話を聞き、すべてを知る。

オイディプスは非嘆にくれ、自ら両目を短剣で刺して盲目となり、町を出て乞食となる。

※フロイト

…男の子は基本的に母親を巡って父親と対立関係にあり、父を無意識に憎んでいる。

※エレクトラ・コンプレックス

…女の子の母親に対する憎悪。20 世紀初に女性は政治参加がなかったのでラスウェルは考慮せず。

② d : 公共の目標(public object)に置き換え(displacement)

…個人的動機を理由に政治人になることは認められない

→自我防衛の“置き換え”同様 p を変換、個人的感情を公の目標 public object に置き換える。

③ r: 公共の利益(public interest)にそって**合理化(rationalization)**

…合理的正当化(rational justification)。自分だけでなく、**公の利益(public interest)**になる、として合理化をおこなう。自分が権力を握って当然だということに説明を付ける。

④ } : 変換(transformation)記号

…左の項を右のに置き換える記号。

※権力追求者…個人的動機を公の目標に置換し、公共の利益による合理化で政治的人間に転化。

3. 政治人の類型学

(1) 性格型と政治的類型

	性格型	政治的タイプ
①	強迫型(compulsive)	官僚(administrator)
②	劇化型(dramatising)	扇動家(agitator)
③	冷徹(detachment)型	外交官(diplomat)・仲裁者(conciliator)

(2) 説明

…ラスウェルは実証的な研究を行った。裁判官の家庭環境と日常行動を調べ、性格型を導き出した。∴政治家…落選確率高く継続的観察難、経歴不明多。裁判官…選挙制ゆえ政治性を有する。

① 強迫型

- ・家庭経済的に恵まれており、社会的に地位が高い。

父親…厳格、冷たい 母親…堅苦しい

男の兄弟が最低二人。兄弟で張り合う←家庭内の愛情が不足、賞賛と愛情を求める。

- ・性格：強迫型性格

物事の人間関係を画一的に処理する。原則に縛られ融通が利かない。

先例重視・細かい点にうるさい・あたたかみがない・規則一点張り・自分の権限が人に侵されるのを嫌う。

- ・政治的類型：官僚タイプ (ex.「あなたとは違うんです」の元首相)

② 劇化型

- ・家庭…緊張感に満ちている。

母親…中流出身。教養あり。婚期を逃した感じで無理やり結婚。だが、相手は地位的・経済的・性格的 etc に自分の望むような人ではない。

父親…下流出身。妻にバカにされていると感じる。父は口では勝てないので、家庭内暴力 domestic violence に走る。

⇒息子…人の感情の動きや空気を読むのが上手くなる(どちらにも気に入られたい)

- ・劇化型性格…自己顕示欲が強い。細かい点は雑だが視野は広く全体を見ている。

新しいもの、多様性を好み、すぐ順応する。

- ・政治的類型：扇動家タイプ (ex. ヒトラー)

③冷徹型 資料少ないからラスウェルも自信ない

- ・愛や怒りといった感情を殆ど持っておらず、冷静・冷酷で何があっても動じない無慈悲な人間である傾向。
- ・激動の時代を上手く生き抜き、権力の近くにいたような人間。(ex. タレーラン)

4. 批判

(1)歴史的制約

- ・ラスウェルの研究した時代には権力という価値をあらゆる価値より強く追求するpower seeker(権力追求者)が存在していた。そのため19~20Cには一定の有効性(ex. ヒトラー、ムッソリーニ、スターリン等スケールの大きなpower seekerの存在)。
 - 21c にはpower seekerのスケールが小さくなり、現代の指導者を三分類にあてはめるのは不可能
 - 今はpower seeker を考えるより、democracyの中で働くleadership の問題を考えるべき。
 - Lasswell の議論は 19c 末~20c 初を対象にするという歴史的制約を持つのではないか。
- ・現代では、自分から権力を求める人よりは、人々の共感・賛同を得て、権力を行使するとするリーダーシップ理論・「leadership —— followership」の関係の方を考えるべきではないか。
- ・昔の歴史上の人物を分析するのには面白いかもしれない。

(2)エリート主義 cf. p11(124)

- ・Lasswellは政治リーダーに着目して研究しており一般人のことについてはあまり研究されていない。
 - 「さまざまな価値の中で特に『権力』という価値をより追求しようとする」ことができる一部の人間だけを考察する elite 主義に基づく議論は一般大衆を考慮せず不適。
 - 20 世紀後半の大衆社会の時代にはそぐわない。

(3) フロイト的人間観

- ・幼少期の家庭環境にのみ注目し多くの他の要素を考慮していないのは、問題の単純化で視野を狭めるものである。

~~~~~第3章 政治集団の理論~~~~~

1. 集団(group)とは何か？

・集団の条件(一般的な定義で「人が集まったもの」でとする社会学での「集団」とは異なる)

①共通の目標・関心を持っている

②地位 status と役割 role の分化+それに対応する規範 norm

…個人は集団の中で上下関係(地位)とそれぞれの役割があり、集団の中には地位と役割に応じて規範(norm)があり、役割から逸脱すると処罰(assumption)が行われる。

③「われわれ意識 We consciousness」がある

2. 集団の考え方の歴史 …あまり真剣に考えられてこなかった cf. p42(401)

(1)ギリシャ・ローマ時代

	個人	⇔	集団	⇔	社会
政治集団	市民の政治哲学		×(理論化されず)		ポリス・共和国の哲学
現実	○		身分集団・地域集団		○

・ギリシャ…よりよいポリスを作るにはどうすべきか+個人はどう生きるべきか

・ローマ …よりよい共和国を作るにはどうすべきか+個人はどう生きるべきか

・社会と個人の中間の「集団」理論はない。なぜなら、ギリシャ・ローマ時代の政治は自由な市民によるものだったから。それ以外の人々はもともとから考慮の対象外であり、理論になっていない。

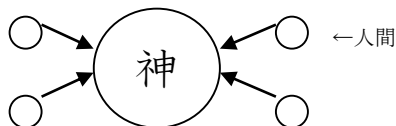
(2)中世

	個人	⇔	集団	⇔	社会
キリスト教	信者個人		×		神の国
政治集団	×		×		有機体的社会観
現実	○		都市・ギルド		○

①キリスト教の世界観 …神の国(Civitas dei) ←キリスト教の特色のある、共同体の新しい理念。

・civitas—共和国(市民が集まった国。共同体 community に近い)

・dei—神の(ゼウス、から来ている)

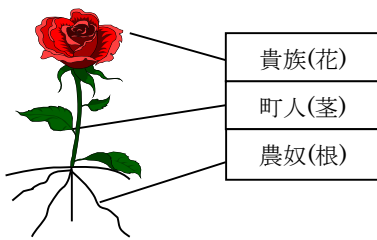


・中心に絶対者である神が存在し、人間は神への愛(アガペー)で神と結合

→信徒が集団に分かれるという発想ナシ

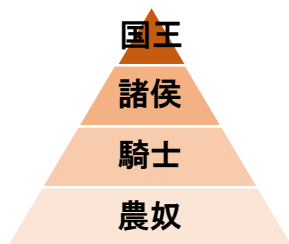
②封建制(feudalism) …すぐ上の人に対する忠誠。すぐ下の人に対する保護。

- ・身分はあるが、集団として認識していない。
- ・有機体的社会観 例として植物を考えると...



各部分が有機的に結合しどれか一つがかけても成り立たない。根・茎・花は別々の物として認識されず、全体として一つと考える。身分は生まれつき。
→社会を成り立たせるため、個々の生まれつきの身分が固定されることを正当化。

- ・現実には身分によるピラミッド型の社会構造



- ・身分が固定化され、その差を乗り越えることは困難な階層性身分社会。
- ・上位の者が下位の者を保護、下位の者が上位の者に忠誠。各々がその役割を果たすことで社会成立。
- ・農奴は移動の自由が無く人権が認められない。中世代、支配されることは当然のことだった。

- ・都市同盟、職人ギルドという集団が発達…封建社会と別種の存在であり、理論化されなかった。

(3)近代前半

①絶対主義国家 absolute state の成長

…国王は絶対であり、国全体が国王の財産。その中に住む人々は国王の家に従属する臣民。
圧倒的に強い力を用い、地域共同体・ギルド等抑圧し、集団の自律性が喪失。

②国家が宗教を定める(国家宗教)

…国家と宗教が結びつく

- 宗教における正教(orthodoxy)と異端(heterodoxy)の区別が明確化。
- 宗教対立、異端への弾圧・迫害
- 少数派の宗教集団から、自分たちの利益(≠個人の利益)を守ろうと運動
- 現実には理論武装によって対抗、自然法理念の発達。

ex. 暴君放伐論(monarchomachi、モナルコマキ)

- …仏でユグノー派が大々的に始める。“暴君なら追い出して良い”
- 後にホッブズが革命権として発展させる。

③Johannes Althusius ヨハネス・アルトジウス (1557-1638) の政治理論

…フランドルの人。自然法学者。

- ・当時のフランドルは経済的に豊かだが、スペインハプスブルク家の支配下。スペインはゴイセンを抑圧。この現実に対抗して理論武装→集団が初めて理論化される。

a. [社会の考え方] **社会契約説**…社会は契約によって成り立っている。

- ・アルトジウスの社会契約説は、ルソーなどよりも古い形。
- ・ルソー等では契約するのは個人だが、アルトジウスのものでは最小単位は**家族**。
- ・社会を層状とし、下位(基礎)の社会が上位の社会を支えるとする。
- ・家族 → 任意集団 → 地域共同体 → civitas (国)
 集まる 集まる 集まる
- ・上位の集まりは下位の集まりのために形成される。

b. [国家の考え方] **多元的国家論・多元論 (pluralism)**

…国家(人の集まったcommunity)も社会集団の一種に過ぎず、権力は国家が独占するのではなくほかの集団もまた権力を有しているという考え。これはfictionであって、現実とは反対のことを自然法として主張した。但し、集団間の関係を調節するという点での優位性は認める。

④多元的国家論

a.意味 …「政治理論の上で」国家の権力を特別な位置から引きずり下ろした。

b.比較

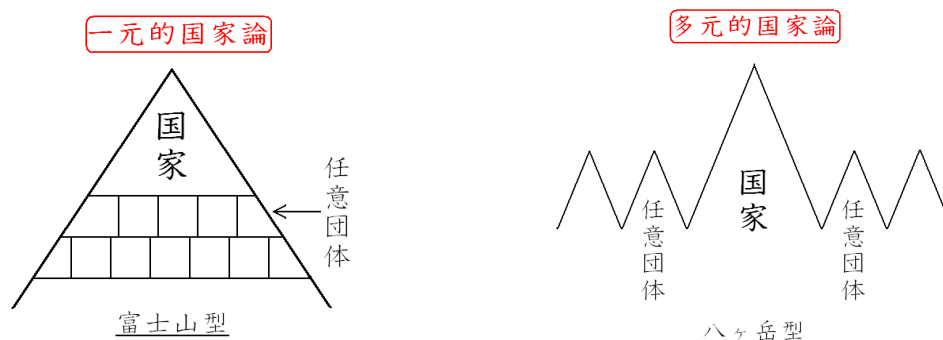
①**伝統的国家論** …ピラミッド(富士山)型。国家は他の集団の上に位置する特別なもの。他の集団とは性質が違う。

- ・一元的国家論を支える論拠
 1. 加入・脱退の自由がない ⇔ 他国への帰化が可能、自由のない集団は他にも存在
 2. 特別な強制力(特権)を持っている …国家は逮捕・暴力行使ができる
 3. 永久的である ⇔ 中央アジア諸国家の興亡の歴史の様に国家は滅びる

②**多元的国家論** …ヒマラヤ(八ヶ岳)型

…国家は他の様々な集団と並立して存在する集団に過ぎない。

ただし国家は他の集団同士の関係を調整しており、相対的に優越している。



	個人	⇔	集団	⇔	社会
モナルコマキ	×		少数反対派		近代国家
多元的国家論	×		下級社会		上級社会
現実	×		×		(台頭する)近代国家

(4)近代後半 …アルトジウスの理論は近代後半の強権的國家の誕生の中埋もれた存在だったが、19世紀に再発見。

①絶対主義の政治理論：國家擁護の政治イデオロギー・政治原理

- ・ジャン・ボーダン Jean Bodin (1530-1596) …主權の概念を唱える。
- ・主權(sovereignty)論：封建制の特權を越えるところに國家の主權があると想定した。
- ・中世の様々な制度の残る中(莊園領主は領主裁判權等の權利を持ち權力分散)、絶対君主が成長しつつある時代、封建遺制(領主裁判權、徵稅權etc.)が発生し國家統一の障害になる。
→封建遺制における權利を否定するためにボーダンのような國家擁護理論が必要に
→封建遺制における諸權利を超越する、最高の絶対的權力=國家主權(絶対的權力)の存在を規定

②近代政治原理：國家を擁護、それ以上に國家と對抗する個人を擁護

- ・封建遺制を守らず國家を擁護する
⇔現實の國家が大きくなってきたため、國家と對抗する個人の權利も主張
- ・國家と個人を考え、その中間段階にある集團については考えない。
←個人が集まって國家を作る(社會契約論：契約当事者=個人)とするため、中間の集團は考えられない。
- ・トマス・ホッブズ Thomas Hobbes (1558-1679)
- ・ジョン・ロック John Locke (1632-1704)
- ・ジャン・ジャック・ルソー Jean-Jacques Roussou (1712-78)

	個人	⇔	集團	⇔	社會
絶対主義	×(臣民)		×		近代國家
近代政治原理	(合理的)市民		×		近代國家
現實	×		×		(圧倒的な力を持つ)近代國家

(5)集團がほとんど理論化されなかった理由

①政治

- ・政治は權力を握る一部の個人が行うことで、一般の人々は政治に関われない。
⇒政治というものは、個人を超えた社會レベルの問題であると考ええる。
- ・マキャベリはこれの典型
…君主は特別。大多数は君主になれないから大多数のことは考えなくて良い。つまり、一人の政治リーダーと、社會全体との関わりのみが重要(絶対主義)。

②個人

- ・平等な個人が集まって政治を行うので、個人の平等を壊す集團の存在を考えない。
⇒政治は個人レベルの問題であると考ええる。
- ・政黨…独立した個人の自由な判断の妨げになる者としてイギリスでは当初批判を受けた。

3. マルクス主義による階級(class)の理論 cf. p42(402)

- ・近代市民社会のイデオロギーに対して反動的な立場…現実とは違う、という問題提起
- ・マルクス…社会は部分集団 (=階級 class) に分かれている、とする。

(1)階級分裂

…現代社会は、**支配階級(資本家)**と**被支配階級(労働者=プロレタリア)**の二つの階級から成立している。

生産手段を持っている者が支配階級。自分の労働以外売るものがない者は労働者階級。

(2)階級利害 class interest (マルクス主義では interest を利害と訳す)

- ・支配階級と被支配階級の利害は必然的に対立する(支配階級と被支配階級の interest は同じだとする社会有機体説を否定)
 - ・階級利害が直接対立するわけではなく、最初から自動的に認識できるものでもない。
 - ・ある階級に所属する人は共通する状況に置かれている。
 - その状況から似通った要求・利益・関心が出現する。
 - これら全体を、階級利害とする。
- ex. デフレ期の日本…労働者は派遣をやめて正社員として雇用してほしい、給料あげてほしい、と考える。

(3)階級意識 class consciousness

- ・ある労働者が、自らの状況は労働者階級に共通すると**理性的に認識**する。
 - ①**連帯感**を得る。
 - 階級の②**利害の対立を認識**する。
 - 労働者は一番抑圧された階級であるから、プロレタリアが解放されれば全ての階級が解放される。
 - ③**自らの階級の歴史的・社会的使命**は自らを解放することである(④**解放への目標と展望**)
 - 革命を行い解放を実現する(⑤**手段の認識**)

$$G = f(Ir, Cs)$$

G=group (集団)…階級

Ir=interest (利益)…階級利害

Cs=consciousness (意識)…階級意識

⇒階級 (集団) は、階級利害を理性的に認識して、階級意識が形成されることにより成立する。

- ・多元主義に基づく…一人ひとりが利益を求める→集団を作る
 - 社会は相異なる interest をもつ様々な集団が活動しぶつかりあう “アリーナ” になる。
 - 集団は coalition 連合を作る。

第1節 集合的選択 collective choice の理論

○K.J.Arrow と M.Olson

- ・ここでの**集合体(collectivity)**とは、理性を用いて合理的な選択を行う能力がある、バラバラに独立した一人ひとりの人間の集合である(この点で、interestで集団=groupを作るとする集団理論 cf. p37～(320台)と異なる)
- ※ “切手を集める(collect stamps)” という意味でのcollect. バラバラなものを一つずつ集めた物
- ・個々人が自分のinterestにしたがって下した判断(「**個人の選択**」)の**総和**、寄せ集め(これはΣと同じである)としての「**集団による選択**」。
- ・多元主義に近い
…政治は下から決めていく(ボーダン は上から決めると考える)。ただし個人はバラバラ。

1a. 歴史的源泉

(1)近代の人間観

- ・ロックに代表される…**自己決定的人間**。人間は合理的であるということを前提とする。cf. p7(112)

(2) J.Bentham(1748～1832)…近代の功利主義(utilitarianism) cf. p7(112)

- ①幸福…快樂があり苦しみがないこと。
- ②幸福の増大…幸福を増大させるように行動するのが人間の行動の原理。
- ③「**最大多数の最大幸福 greatest happiness of the greatest number**」
 - ・社会における幸福の総和(Σ)が最大になる時を理想とする。
 - ・各人の幸福がいつも噛み合うとは限らない。(ex.夜にロックをしたい Aさんと隣人の勉強したい Bさん)
→A の happiness を一定程度減らすと A にも練習出来る時間は作る、という様にバランスがとれるようにする。全ての人の happiness の和が最大になるのが良い。

(3) J.S.Mill (1808-1873)の考え方

- ・他人に迷惑をかけない限り何をしても良い、とする liberalism な democracy を構築した。
←ナチや大日本帝国等の自由を統制する全体主義とは対極。
- ・ミル以前は、「個人がわがままに主張するだけなら democracy は崩壊する」と思われていた。
- ・多数決を正しい意思統一の仕方として主張。
- ①人間の意思は、**個人的利益**によって決まる。←自由主義の大前提
だが、ごく少数だが、全体の利益のことを考える人もいる。
- ②各自が利己心に従う意志決定は、常にバラバラで一致することはない。
- ③だが全体の利益を考える少数の人々の意志は、彼らは理性的に考えるのだから一致する。
⇒すべての人が**討議に参加**して、正しい決定は何かを**教育、宣伝(propaganda)**されるならば、「個人の利益を寛容する」自由な社会でも、正しい意見を理解し協調する人が増える。
←個人は合理的であるという前提。
⇒ここで投票を行うと、個人の自由を尊重したまま democracy が正しい決定を行える。

- ・このような議論を重視する方法を**熟議・討議(deliberative)デモクラシー**という。つまり、最初から個人のわがままを抑えるのではなく、一人ひとりの利益を寛容しながらなおかつ全体として正しい決定をする、というプロセス。
- ・このあり方が最近見直されており、ミルの原点に立ち返ろうとする動きも存在。
 ←**neo liberal** への反対。現代社会でdeliberative democracy の条件が整う＝インターネット等の情報・通信手段の発展で様々な意見に触れて討議しやすくなっている。

1b. [用語解釈] liberal の意味

(1)語源

- ・中世ラテン語…liberalis →中世英語…liberal(語尾欠落)
- ・意味1 : free(man), suitable for a free man →suitable for a gentle man (one not tied to a trade)
 …ある身分に生まれた人はその発想しかできない。
 →働くいてしまうとそのやり方に慣れ、個別の物にとらわれない人にはなれない。
 →教養があり、一つの仕事、ものの見方にとらわれない(固定観念から解放された)豊かな平民であるGentry
 …現在では「狭い体験や知識にとらわれない、視野の広い」という意味に。ex. liberal arts
- ・意味2 : generous → free from restraint …寛容であり、執着しない
 →(2)(3)へと変化

(2)18C 後～20C 初

- ・古典的リベラリズム(**traditional liberalism**)…自由放任、laissez-faire「為すがままにせよ」、夜警国家
 ex. アダム＝スミス…国家は小さいほうが良い→夜警国家論(国家は国防と治安維持のみ)
- ・一般的意味
 - ①異なる行動や意見を尊重し受け入れる。
 - ②個人が欲する行動、発言、考える権利を尊重。
- ・政治的意味
 - ①個人が権力から課せられる抑圧的な拘束にとらわれない状態(liberty)を推進。
 …余計な干渉が無ければよしとし、受身的。
 ex. 英の支配から脱する米に仏から自由の女神像(the statue of liberty)が寄贈。
 - ②19世紀後半のEnglandでLiberal Partyが設立される。
 …①に加えて自由貿易、穏健な政治・社会改革を実行。
 →radical, new liberal が発生、穏健な「～からの自由」を超えて、積極的な「～への自由」を主張。
 →20世紀のsocialismやsocial democracyへと発展。(英ではsocialismに吸収される)
 ex. 100m 走でコースによりハードルがあったり無かったりするのダメ。
 →スタートラインでの平等(スポーツ教育を受ける自由、情報を得る自由等)を求めるように。

(3)20世紀後半：neo-liberalの登場（neo-liberalはnew liberalと異なることに注意）

- ・国家が最初に公共事業等で金を出し財政によって景気を活性化させる(= “ポンプの呼び水”)
→その後は民間がうまくやっていく。
- ・福祉国家…国家が国民の福祉サービスを行う。
→公務員として働く人が増える。

⇒国家が肥大化し、財政赤字が発生。

⇒米：この方法を否定、北欧：こういうやり方で構わない。

↳国家は小さくて良い。福祉は市場に任せよ。自由な活動をさせることで活性化する。

=neo-liberal

①個人的自由の尊厳を主張し、政府の恣意的な政策を批判「市場の自動調節作用」

…古典的リベラリズムと同じ

②法により強力な支配+個人への拘束を排除→「法秩序のもとでの自由」を確立することを主張

…古典的リベラリズムとは違い、「小さいが強い国家」を主張。

ex.イギリスのサッチャー政権…多元主義的考えを否定、他の集団はすべて国家のもとに。

(労組との対話を停止するなど)

2. 基本的な考え方

○個人の総和としての集団 Σ = 集合体 collectivity の意志決定に関する理論。

※集合体は、利己的で独立した個人の総和(集まった)ものだという意。

$$G = f(Id, Cs) = \Sigma Id$$

G…group(集団)

Id…individual(個人)

Σ …総和

3. K.J.Arrow の理論 一般不可能性定理(general impossibility theorem)

○参考:ケネス.J. アロー『社会的選択と個人的評価』(日経 1977)

佐伯 ゆたか 『決め方の論理』(東大出版 1980)…これを使用して講義ノートを書いたそうです

○preference を表す記号は \succ ではなく \succsim である。

○この章の授業プリントは誤字が多いので書き間違えないよう気をつけて下さい。選考ではなく選好。

(1) 前提となる考え方

- ・個人は合理的であるという考えは維持。
- ・熟議をするとは考えず、自らの利益に従った判断をする個人の選択の集合がどうなるかを考える。
- ・我々は、いくつかの**選択肢 alternative**の中から、任意の二つを取り出して、**選好 preference** あるいは**無関心 indifference**を決めることができる。
※無関心の表明はその人の自由であり(リベラリズム)、「どちらでもよい」という選択を認めないと個人に一定の選好を持った選択を強いることになり個人の自由が尊重されない(ファシズム)
- ・A…個人、x,y,z…選択肢(個人が何を選ぶかは自由なので好きなものを選べる)

- ・いっぺんに複数個を比べるのは大変なので、二つを取り出して考える。このとき、選択は以下の3通りのいずれかに定まる。これを繰り返して選好順位が決定される。

$$\left\{ \begin{array}{l} \cdot x > y \cdots \text{選好(preference) (y より x がよい)} \\ \cdot x < y \cdots \text{選好(preference) (x より y がよい)} \\ \cdot x \sim y \cdots \text{無関心(indifference) (どちらでもよい)} \end{array} \right.$$

- ・[集合的選択例 1] $\cdots A: x > y > z, B: x > z > y, C: y > z > x$ (3人が多数決で決まる一番小さい集団)

(2) アロー以前の理論

○絶対王政など個人が全てを決定する場合には複数の人が物事を決める論理は不要。

→フランス革命期以後になって平等な個人の集団が順位を決める必要がうまれ理論成立。

①コンドルセ(Condorcet : 仏)の理論(単純多数制)

- ・2つの選択肢を取り出す→2つを比較して、勝ったほう(Condorcet 式 winner)を選ぶ
- ・例：上の例で考える
 - ①x と y を比較 $\cdots A$ と B は $x > y$ 、 C は $y > x \rightarrow x$ が(暫定)第一位、 y は loser
 - ②y と z を比較 $\cdots A: y > z \quad B: y < z \quad C: y > z \rightarrow y > z$
→ y は第二位、z は第三位
 - ③集合的選択は $x > y > z$
- ・この理論では優先順位しか考えていないため、選択の強さ(個々の投票者がどのくらい各選択肢を好きなのか、嫌いなのかという思いの強さ)は全く考慮に入れない。

②ボルダ(Borda : 蘭)

- ・選択の順位に対して一定の点数を与えて得点を総計することで、選好の強さも考慮。
- ・複雑なところでもよく使われる。
- ・それぞれの持つ得点は何点でもよく、順位が下がるにつれ得点が減少していればよい。
- ・例：[集合的選択例 1]で、一位に7点、二位に4点、三位に1点を与える。
(一位重視の得点配分。一位3点、二位2点、三位1点だと一位重視しない点数配分)
→ $x=15$ 点、 $y=12$ 点、 $z=12$ 点
→ $x > y = z$ が集合的選択
- ・各順位の得点が固定されており、各人の選好強度の反映はまだ不十分。
…例えばCが(宗教上の理由等)故あって「xは絶対にダメ」と思っている、それは反映されない。

③持ち点方式

- ・各投票者に同じ持ち点を与え、その点を各選択肢に配分させ、その得点の総和で順位を決める。
- ・例：[集合的選択例 1]で各 voter に持ち点10点を配分。
 - ①A : $x(6) > y(3) > z(1)$ 、B : $x(5) > z(3) > y(2)$ 、C : $y(9) > z(1) > x(0)$
 - ②結果 : $y(14) > x(11) > z(5)$
- ・投票者の持ち点は何点にすべきか、万人が納得する持ち点は出てこない。
- ・多くの選択肢があると投票が複雑になりすぎる。

- ・点数を集中させれば結果を変えるのは結構可能。だが皆がそういうふうになると持ち点の意味がなくなる(カー・オブ・ザ・イヤーでは審査員を買収して点数を集中させる不正があったため、現在の審査では持ち点の半分までしか集中できないことになっている)

※以上三つを見ると、集計方法が異なると順位が異なる。

(3) アローの 6 条件 (アローは選択の順位だけを考え、その次に選好の強さを考えた)

①連結律 **connectivity** …どの二つの選択枝も比較することができるという条件

- ・全ての選択枝 x, y について、 $x > y$ 、 $y > x$ 、 $x \sim y$ のどれかが言える。何らかの形で結びつけることができる、ということ。 x と y は次元が違うから比較できないということはない、とする。

②推移律 **transitivity** …個人的合理性(rationality)の条件

- ・全ての選択枝 x, y, z について、 $x > y$ 、 $y > z$ ならば $x > z$ となる。
- ・非合理的な**循環順序**を避け、論理的整合性を保つ。(選択の基準を変えるのは別。選択の基準が同一であるなら循環順序の発生は非合理的)
ex)子供が考える。食べたいのはバナナ>りんご、りんご>みかん、みかん>バナナだと。すると、
バナナ>りんご>みかん>バナナ>りんご・・・と循環してしまう。

③領域無制約性 **unlimited domain** …自由主義 liberalism の条件

- ・個人はすべての選択枝に対して、どのような選好順序を示して良い。
→個人の選択の自由を保障(※授業プリントのは誤記) …自由主義 liberalism の価値の表現

④パレート最適性 **Pareto optimum** …民主主義 democracy の条件

- ・パレート…20 世紀初に活躍したイタリア人の政治・社会学者。パレードではないことに注意。
- ・集合的選択においてはその集団を構成する個人の選択を、可能な限り尊重すべきである。
そうでないと**パレート最適**の状態ではない。

注)多数決との比較 10 人からなる集団の集合的選択で、選択枝は x, y の二つ。

$x > y$ …9 人、 $y > x$ …1 人 の場合、集合的選択は $x > y$

$x > y$ …4 人、 $x \sim y$ …1 人、 $y > x$ …5 人 の場合、集合的選択は $y > x$

$x > y$ …1 人 $x \sim y$ …9 人 の場合、多数決では $x \sim y$ だが、パレート最適は $x > y$ である。

⑤無関係対象からの独立性 **independence of infeasible alternatives** …分析的理性の条件

- ・選択枝を限定した後でも、選択枝内の選択順序は変化しない。
- ・一度に世の中に満ち満ちている数多の選択枝を考えるのは困難。
→二つに限定して考える。それらを後でくっつけても変わらない。
世の中の全てのことが分析的に考えられる訳ではないが複雑なものごとでも分析的に考えられる。
- ・例：4 つの選択枝 x, y, p, q … $A : x > p > y > q$ 、 $B : q > y > p > x$
…ここで選択枝を x, y 2 つに限定する(= p, q が無関係対象になる)と、 $A : x > y$ 、 $B : y > x$ 。
- ・例：10 人から構成される集団 … 3 人： $x > p > y > q$ 、 $B : q > y > p > x$
ここで選択枝を x, y 2 つに限定すると、3 人： $x > y$ 、7 人： $y > x$ となる。

⑥非独裁性 **non-dictatorship** …(パレート最適とはやや違う意味での)民主主義 democracy の条件

- ・どのような個人の選択順序も、他の人々の選択順序より優先されてはならない。

(4) 一般不可能性定理

①6つの条件の間には一般的に論理的な矛盾がある(同時に全てを満足することはできない場合がある)ことがアローによって証明された。ここでは反証(6条件を満足しない実例)を一つ紹介。

②投票者のパラドックス voters' paradox

…もともとアローはこの問題を解くために6つの条件を考えたが解けないことが証明された。

- ・A, B, C からなる集団、 x, y, z の三つの選択肢、
選好順序は $A: x > y > z$ 、 $B: y > z > x$ 、 $C: z > x > y$

…①②は満足、③⑤はこの際関係ない。⑥も各人は選好を押し付けないとする。問題は④。

- ・この集団が $x > y > z$ としたとすると、この集団は B と C の選択を活かしていないこととなる。
($y > z > x$ でも $z > x > y$ でも同様)

- ・x を第一順位にすると、A は OK、だが B と C が反対。
 - ・y を第一順位にすると、B は OK、だが A と C が反対。
 - ・z を第一順位にすると、C は OK、だが A と B が反対。

- ・x, y, z のどれを選んでも全ての個人の選択を最大限に尊重することにはならない。

…パレート最適にならない。ここで例えば C が選好順序を変えれば解決するがそれは非独裁性に反する。

- ・投票者が3人以上かつ選択肢の数が3つ以上の時に発生しうる。投票者、選択肢の数が増えれば増えるほど発生しやすくなる。選択肢の数が2つなら発生しないが、選択肢をどのように2つに絞るかが問題となる。

(5) パラドックスの実例

①1955年のアメリカ合衆国上院 …簡略化のため詳しい経緯は省きます。他のシケプリを参照して下さい。

○議会の状況

- ・多数党…民主党
 - 南部派(DS): 保守的、リーダーは院内総務議会の L.Johnson(南部出身)。
 - 北部派(DN): 進歩派
- ・少数党…共和党(R)
- ・各派の議席数はほぼ同数の3分の1。

○政策…国道(interstate highway)建設法案

- ・ディヴィス=バーコン挿入句 …労働者の賃金は連邦政府が一律に決定する。これに南部派反発。
- ・選択肢… G: 原案(挿入句つき)、S: 修正案(挿入句なし)、H: 廃案

○選好順序 …南部派: $S > H > G$ 、北部派: $G > S > H$ 、共和党: $H > G > S$

→投票者のパラドックスの状況

②院内総務議会の L.Johnson のやり方

①Gにするか、S/Hのどちらかにするか2つで投票 →DSとRはS/Hを選好し、Gがボツ。

②SにするかHにするか →DNは第二位のSに賛成するためHが負ける。→Sが可決される。

③投票者のパラドックス状況があるとき、「採決の順序」によってどのような結論も決定できる。

→**経路依存性 path dependancy**(最初に切り離されたものここではGは絶対に負ける)

…道理や合理的討議ではなく、手順自体が選択を決定すること。

歴史的・習慣的に行うことも含む。ex. 学園祭(習慣的な手順で行われる)

4.集合財 collective goods の理論

○M.Olson 「集合行為論」(ミネルヴァ書房,1983)

(1)集合財

- ・財(goods) …人間の欲望を満足させるモノ。目に見えなくとも良い。
- ・個人財(private goods) …大多数の財。ある個人が消費されると他の個人が消費できない財。
服、ペンなど。
- ・集合財(共通財 common goods、公共財 public goods)
…集団の中のある個人が消費する場合に、その集団のどの個人も消費できる財。
＝消費の排除不可能性(自分が使っていても他人の消費を排除できない)と
消費の非競合性(競争市内で使える。ex. 電車、空気)

(2) 集合財と個人の選択

○結論:大規模な集団において、もし個人が合理的な選択をするならば集合財は決して選択されない。

○議論

①大規模な集団において、ある個人が犠牲を払うとしても、効果は期待できない。

- ・不確実性 1: 他の人々による選択は不明→集合財を入手する保証はない。
- ・不確実性 2: 自分が犠牲を払わなくても他の人々による犠牲があれば、自分は犠牲を払わず集合財を入手可能。

②大規模集団では、個人の行動は目立たない

- ・不可視性 1: 自分が集合財入手のために活躍したとしても、賞賛されない。
- ・不可視性 2: 何もしないで集合財を得たとしても非難されない。

③「犠牲を払わずに集合財を手に入れた人」は、犠牲を払った人よりも明らかに得をする。

⇒大規模な集団では、ただ乗り(free rider)のほうが得をする。

⇒合理的な個人は free rider になる。

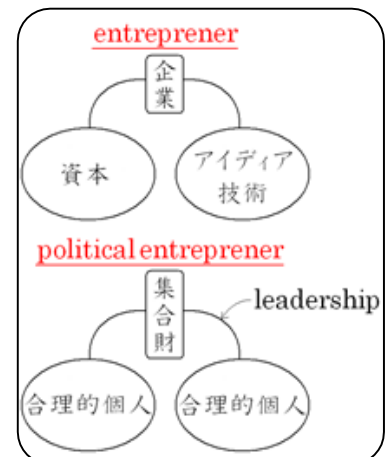
○解決策…すべての場合において個人が free rider になるわけではない。

①独裁性(dictator) …ある独裁者が個人の選択を押し付けることで集合財が選択可能に。

これはアローの非独裁性の裏返しであり、望ましいものではない。

②政治的企業家(political entrepreneur) …オルソンはこれを一番望ましいとした。

- ・entrepreneur(仏)とは、資本とアイデア・技術を結びつけて事業を行う人のこと。それにより人々は良い商品などを手に入れることができ幸せになる。
- ・political entrepreneur は、合理的個人の間を取り持ち、個人の合理性を超越して集合体全体の合理性を考慮し、人々の先に立って集合財入手のための犠牲を払うよう呼びかける人(=政治学での leadership)
- ・更に、「この方法でも希望は実現可能である」、「より大きなものが実現可能である」と人々の手段(レパートリー)を広げることも。



5.特徴と批判

(1) 精密な理論…我々の社会は精密ではないから、現実から遊離してしまう。考え方のガイドラインとしては役立つが政治分析としては使えない。

(2) 合理的人間観

…人間は常に合理的ではない。人間は必ずしも自らの **interest** を本当に正確に理解し、その **interest** にそって行動するわけではない。

(3) 個人主義・個別主義(individualism) …一つのものを取り上げて議論すると方法論的個別主義。

○原子論 **atomism** …この世を成り立たせる原子に分解すればすべて説明がつく。社会は個人の集まりであり、一人ひとりの個人を考える。



○全体論 **holism** …個別のものは全体の中で初めて動き、個別のものを議論してもあまり意味がないとする。

- ・ ex. 先進国の中央銀行制度を発展途上国に移植してもそれが機能しているかわからない。中央銀行制度を導入した国の **GNP** が上昇したからと言って、それが中央銀行制度によるものかどうかを検証するのは不可能。システム全体の数字はモジュールの性能とは無関係。

①長所：社会における個人や個人の権利を尊重

- ・ 自由主義的デモクラシーの伝統。重要なイデオロギー。 **holism** をとると独裁や全体主義を受け入れやすくなってしまう。

②短所：個人は互いに独立・孤立

- ・ 徹底的な個人主義をとり、個人が互いに話し合わない。システム全体の検証はできない。

cf. p48(421)、p46(415)

(cf. 223 の象徴的相互作用論、330～のリーダーシップ論)…今年は取り扱っていません。

アロー流の考えは最近評判が良くない。近年、政策について論を尽くして誠実に地道に議論することが行われなくなっている、とする向きがある。アローによれば選択肢は各個人が自由に取り上げてよく、それを議論する必要はない。ただ多数決を採り選択すればよく、集団の選択が集団を構成する個人の選択や 6 条件に最も適っていればよい。それゆえ現在はやたらと **alternative** や政策の選択が強調されて政策を吟味するということが行われていない、という反省が政治学者や政治家の間で存在している。これは皮肉なことで、アローの理論のルーツである **J・S・ミル** の議論の中心は熟議民主主義であり、時間のかけた真剣な議論を抜きにしたらあまり意味がないとしていた。だが、アローに至って熟議という概念は切り落とされてしまったのだ。

第2節 集団理論 group theory …A.F.Bentley & D.Truman

○一節の集合的選択の理論とは正反対。holism の立場。独立した合理的個人、という前提は共通。

○アメリカのデモクラシーの理想の形を理論化。現実離れはしていないが現実そのものではない。

(1)起源 cf. p24(301)

…「新世界」アメリカ社会の

- ①不鮮明な階級、身分制度なく皆平等 →流動的な政治社会
 - ②多元性 (ex.大都市の数)
- …ヨーロッパと異なりエスニック集団が多数いる。政治経済文化の中心地が一つに定まっておらず、ワシントン(政治)、NY(経済)、カリフォルニア(IT)、シカゴ etc.地域に関しても多元的に基づく。

- ・階級の概念を引きずるマルクスの階級理論は 20C 初頭のアメリカにはなじまなかった。

(2)集団理論と集団の形成

- ・基本的考え方：政治集団はそれを構成する個人の利益関心に従って構成される。cf. p29～(410 台)

$$G = f(Ir)$$

G=group 集団

Ir=interest 集団を構成する個人の利益関心

1. 集団理論とは何か

(1)何を説明しようとするか

- ・社会や経済(政治以外) ⇔ 政治 社会・経済的な利益が政治にどのように影響するか、政治的利益に従って形成された集団によって社会経済がどのように変わるのかについて考察する。

(2)何に注目するのか …利益集団 interest group

①定義

- ・経済的あるいは社会的状況が個人の interest を決定、個人はその interest に適う特定の政策を求める。その特定の政策を求める人々の集団。
- ・この集団の利益関心は、集団の活動によって他人から観察可能なもの。

②利益集団は状況や争点によって組み替えられる流動的な集団。

③・**圧力集団 pressure group**：政策の実現(政治過程 political process)に直接働きかける集団

- ・**提唱集団 advocacy group**：自らの信念を主張することに重点を置く集団

- ・以上三つの集団はすべて政治にかかわるという共通点。特定の政策を進めるという点で、複数の政策をパッケージにして主張する政党とは異なる。

(3)利益集団の利益関心(interest)はどう測定されるのか(以下三点は初期の手段理論に共通する考え方)

①初めに注目する点

- ・特定の争点(issue)を決める。
- ・これに観察可能な意見を表明した能動的な個人を集めるといくつかの利益集団に分かれる。
(即時賛成、ある修正を加えるのなら賛成、反対など)

②測定：(利益集団の利益の大きさ)=(特定の政策を支持する人の総数)/(観察可能な能動的個人の総数)

※観察可能な個人という考え方は後で覆されることに注意。cf. p40(324)

③客観的利益アプローチ…interest は能動的参加と等しく観察可能でなければならないとする見方

2. Arthur. F. Bentley の理論

○Arthur. F. Bentley “*The Process of Government*”(1908) 20c 初のアメリカの状態を反映。

(1)基本的な考え方

$$G = A = I$$

Group(集団)=Activity(活動)=Interest(利益)

○説明

①集団(group)：特定の目標を実現するために「活動する」個人の集まり

→集団と集団による活動(activity)は等しい。

②活動(activity)：その集団が確保しようとする「利益に基づいて」なされる。

→活動は利益(interest)のための活動。

(2)注目すべき点

①政治過程(political process)という概念を開いた。

・政治を様々な集団の活動として動態的に考える。王や官僚による重視の閉鎖的な政治とは異なり、個々の利益集団によって段階的に進展してゆき、最後に結論が出るという考え。

・公開された場でお互いの主張をぶつけ合うので、民主主義の闘技場(アリーナ)に擬せられる。観客の前で公開して行うことが民主主義を担保する重要な要素。

・機構(ex.三権分立)や制度(ex.議院内閣制・大統領制)の議論ではカバーできない部分を取り上げた。

②・「特定の利益」＝具体的に観察可能な集団に注目し、どのような具体的政策を求めるかが重要。

→具体的・観察可能な集団に当てはまる。

・マルクス主義では何が利益なのかははっきりしない。階級(class)という定義が一般的で漠然としており特定の利益と結びつかない。→中国で農地をとられた農民の出現。

・活動(activity)を考える。

…集団の確定→観察可能な基準としての「活動(activity)」。

③評価

・関係のないところで行われていた政治を人々の日常生活に引き戻した。

・新しい理論、20C アメリカに対する期待を背負った理論でもあった。

・当時は先進的すぎて世の中に受け入れられなかった。

3. David. E. Truman の政治理論 …David. E. Truman “*The Governmental Process*”(1951, 1971)

(1)利益集団の考え方

・定義：interest group とは、

①ある状況において求められる目標(政策ではない)について

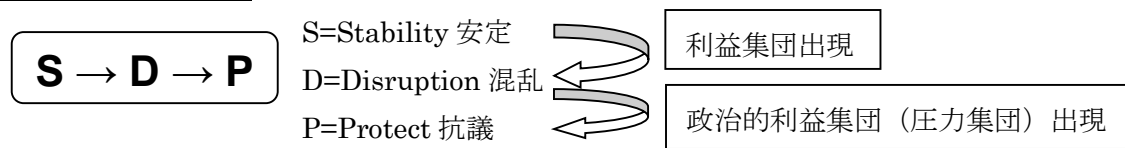
②他の集団に対する要求や主張によって観察可能な

③共通の態度(attitude:心的態度、関心の方向性)を持つ

} 集団

…ベントリーよりかなり広い定義。
政治過程の考え方が異なる。

(2)政治過程の考え方



①安定：社会は制度化(cf. p20(211))された集団から成り立っている。

→集団には決まった行動様式があり、それに従っている状態は均衡(equilibrium)が成立。

②混乱：状況が変化すると安定がくつがえる。

→新たな均衡回復のための新しい集団が起こり、利益集団が形成される。

→集団が政府に働きかける前にこの時点で社会が解決して混乱が収束する場合もある。

③抗議：混乱が大きいと、新しい集団は政府に対して抗議を行う。

＝政治的利益集団の形成

※トルーマンは利益集団と政治的利益集団の違いを区別。

(3)ベントリーの考え方との比較

①政治的利益集団の考え方

- ・特定の争点について明確な政策目標を持つ…同じ
- ・政府に抗議するものだけが政治的利益集団…違う

…ベントリーは利益集団はすべて政治的であるとした。トルーマンは集団を定義するとき、制度化された集団を前提としていたがこれはベントリーの言う自由に組み合わる集団とは随分異なり、バトルアリーナ状態にならない。トルーマンは、人々は定型化された行動様式の間に生きており、その延長線上で政府に抗するという整然とした状態を考えている。

→現在の用語法から言うと、トルーマンの「政治的利益集団」は「圧力団体」に近い。

②なぜ政治的利益集団を単なる利益集団と区別したのか

- ・トルーマンは政治は手段だと考えたから。
 - …利益集団の発生源は政治ではなく、社会的や経済的な政治以外の目標を持っており、政治的かどうかは手段をどうとるかに過ぎない。
- ・同時に、政治活動はそれ自体独立しているから。
 - …ベントリーでは集団の活動が政治的であるとするが、トルーマンは非政治的な行動は政治活動にならないとする。

→トルーマンは政治と非政治を区別。政治は手段でそれ自体価値として追及されるものではない。

③政治過程の考え方

- ・ベントリー：政治過程は流動的。リングの中で行われるバトルロイヤル。
- ・トルーマン：政治社会の安定——均衡——を前提。それが状況の変化によって混乱するとする。
 - やじろべえが揺れる様な状態。

4. トルーマン以後の政治理論 …三つの点で修正が施された。

(1) 混乱(disruption)から抗議(protest)への移行

・「D がある程度大きいと P になる」といったときの「ある程度」が曖昧で緻密にする必要あり。

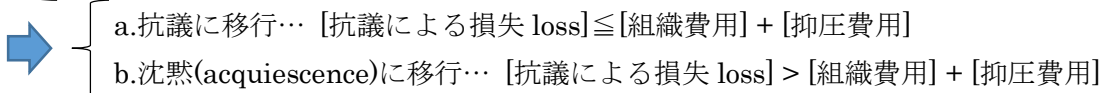
・費用—効用論

①組織費用(organizational cost)：政治的利益集団の形成や維持に支払う費用

ex. 毎回仕事の後に組織の会合に出席するのは負担になる。

②抑圧費用(repression cost)：制裁を受けるかもしれないことによる費用

ex. 国税庁の職員なのに消費税反対のデモに参加して制裁を受けるコストあり。



(2) 新しい政治過程の発見

S → P → ST

S=Stability(安定)

P=Protest(抗議)

ST=Social Transformation(社会変革)

ex. 1955 年、Montgomery での市営バスボ・イコット事件

・ 公民権法で有名な人種差別のバスの話

・ 黒人女性が白人席に座り protest → 警官が女性を逮捕 → バスボイコット、社会変革へ

・ ここでは混乱がなくても抗議が発生している。安定状態の中でも差別を組み込んだ安定であり、不満が鬱積している状態だった。

→抗議は、トルーマンのような安定を求めるのではなく、社会変革を求めるもの。

(3) 主観的利益(subjective interest)アプローチ

・ 安定した社会状況の中でも、不満が鬱積していた南部のアフリカ系アメリカ人たちには社会を変えたいという気持ちがあった。

→日常の行動には表れない「利益関心」を考える必要あり。interest には、主観的で表面化しないものもある。

→利益関心を「心の中の問題」(主観的なもの)として考える方法

5. 特徴と批判

(1) 社会の安定状態を前提 → 均衡理論(balancing theory)：しばしば現状肯定的で変革の芽を見過ぐす。

①一見安定している様でも矛盾・不安を抱えた不安定な社会は当然。

→安定 stability を前提として考えるのは現実に適合せず不適切。(トルーマンの見ていた社会は 50 年代の絶頂期の安定したアメリカ)

②流動的な過程(process)を強調しておきながら安定を前提とするのは矛盾しているのではないか。

・ 分析対象の時間の幅の問題。政治過程論で 300 年の社会の変化を見るのは困難で、マルクス主義の階級闘争のほうがいい。逆に 3 年や 5 年のスパンだと政治過程論のほうが分析しやすい。

(2)自分の利益について合理的な判断をする人間が前提

- ・ cost を冷静・理性的に考える人物を前提として考える(近代政治科学の特徴)
- ・ 実際、非合理的な熱意のようなものが人々の行動を動かすこともある。

(3)利益集団の形成

①争点によって自由に組み換わる利益集団 cf. p54(434)

- ・ “アメリカ”の反映、流動的なアメリカ社会には相応しいかもしれないが、他所では、アメリカほどあまり集団が流動的ではない。
- ・ 集団理論に対する反論として、**ネオ・コーポラティズム(Neo-corporatism)**の議論がある。
- ・ **corporation** : エスニシティ、宗教、階級などによって相対的に固定されている団体
 - ex. オランダ…宗教や階級といった柱状団体(zuilen)によって社会が構成される。その柱状団体の中でクラブや結婚が行われ、流動的ではない。(ここ数十年は弱まってきている)
 - ex. 中南米…軍隊、協会、労働組合という三つの団体が強力。

②トルーマンの政治的利益集団…ある程度制度化された集団を考えている。

→制度化されていない群衆・民衆が歴史や政治を決定的に変える場合もある。

第3節 政治的リーダーシップの理論

この節は授業でとばしました。試験範囲には入りません。

補強したい人は他のシケプリを参照してください。

~~~~~第4章 政治社会の理論~~~~~

1. 政治社会の考え方の歴史 cf. p24~(302)

(1)ギリシャ・ローマ時代…ポリスや共和国を作るための政治哲学と政治制度論(機構論)が多く存在。

(2)中世…二つの異なる理論が存在

①キリスト教共同体の宗教哲学…Civitas dei(神の国)

②封建国家を正当化する政治イデオロギー(原理)…社会有機体説

(3)近代

①絶対主義の国家理論

- ・絶対主義国家の正当性を主張する政治イデオロギー
- ・封建遺制における権利を超越する主権確立。これを国王に付与し絶対主義国家成立。
- ・絶対主義国家が育つと、強くなった国家に対して弱くなった個人の権利を守らねばならないというイデオロギー発生。

②近代政治原理…主に政治社会(=国家)の政治制度(機構)を取り扱った理論

- ・自由かつ平等で合理的な個人を前提→市民は対等に政治参加する。

材料	+	調理法	=	料理
個人(市民)	+	制度(機構)	=	よい政治

- ・近代政治原理は材料=個人の質は問題ない(市民は自由∧平等∧合理的と仮定する)であるとして取り上げず、調理法=個人の組み上げ方(制度・機構)を問題とし、そこに集中する。
→間接民主制、大統領制、比例代表制などの機構について考える。
→機構を改善することで良い政治の実現を図る。

2. マルクス主義による政治社会の理論 cf. p28(303)

(1)階級社会(class society)…古代以来、すべての社会は階級社会である。

(2)階級闘争(class conflict)…人類の歴史は階級闘争の歴史。特権を独占する支配階級から、被支配階級が特権を奪還し、自らのものに帰そうとすることで生じる闘争。

(3)国家=暴力装置…階級闘争の社会の中であって、支配階級の特権を守るための暴力装置。

(4)階級闘争論における政治社会

$$Sc = f(P, Cf)$$

Sc: society(社会)、P: Power(権力)、Cf: Conflict(闘争)

社会は権力をめぐる闘争である、ということ。

第1節 新制度論 new institutionalism cf. p4(012(2))

○人間の行動を見ようとする行動主義政治学が興り大きな潮流をなすが、70年代後半に行動主義的政治学に対する疑問や反発が出てきた。

1. 起源—三つの批判

(1) 方法論的個人主義への反発

- ①[利益関心・影響力の理論]市民は自由で平等に政治参加するというのはルソーやホッブズ時代のイデオロギーをそのまま受け継いでいる。
 - ②[集会的選択の理論] アローの理論は新しいといっても、選択は市民の自由であるとしており、リベラリズムを守るという意味ではいいが方法論的には個人主義。
- これらの考え方は現実を正しくとらえていない。集団には個人の自由や平等を超えた独自のルールや取り決めがある。

(2) 多元主義的な政治観への反発

- ・[集会的選択の理論]
 - …個人が自分の **interest** に基づいて自由に集団を形成し、様々な集団の **interest** が政治過程の中で相争う(政策立案、主張するグループが色々な形・場所で主張される)。底辺から始まって議会で持ち出されるまでが全体として大きな闘技場であるというダイナミックなプロセス。
- ・これは政治の理想像であっても現実とは程遠い。

(3) 行動主義政治学への批判

- ・たとえ合理的な個人がいたとしても、その個人が集まって作った組織や集団は合理的に動くとは限らなく、自由な選択や利益表現・表出ができない場合は多い。
- ex. 部品が良くても組み立て方が悪いとよい製品ができるとは限らない。

2. 基本的な考え方

$$D = f(Is)$$

D: decision making(意志決定)

Is: institution(制度)

- ・個人の選択よりも、制度や集団の中のルールや取り決めの方が重要な役割を果たしている。
- ・行動主義を否定したわけではなく、行動主義の上に立つもの。個人は重要だが、制度も重要で時には制度のほうが重要なこともある、という主張。
- ・意志決定はその組織の偏向性、バイアスによって決まる。

※理論によって「制度」の定義は異なり、それぞれ一定の幅を持って使用される。

[非公式的 informal] 暗黙の決まり ⇔ rules of the game ⇔ 慣習 ⇔ … ⇔ 規則 ⇔ 法律 [公式的 formal]

3. P.Bachrach(バクラック)の「権力の二面性(two faces of power)」

○citation の回数多い論文。バクラック自身は不出世。批判する為に引用された？(by 高橋)

○行動論的政治学に対し批判したもので、**新制度論には含まれない**。414 以降の理論に影響。

(1)偏った傾向 bias の存在

①決定がなされた組織における「特定の偏った傾向(the particular “mobilization of bias”)」がどの時点で持ち出されたかを考えなければいけない。

- ・普段は隠れているが、決定をする時にバイアスが表にでて明らかになる。
- ・デモクラシーを下から作り上げていくという面だけを重視してきたが、現実の社会では特定のバイアスに従って人々を上から押さえつけ、政治的決定に影響を与えるものがある。

=権力の持つ二つ目の側面に注目する。

②社会や組織に「存在する偏った傾向(the existing bias)」

- ・その集団における、

支配的価値 the dominant values

神話 the myths

確立された政治手続 the established political procedures

ゲームのルール rules of the game

があげられる。

(2)非決定(nondecision-making)のダイナミックス

- ・何も決めない、ということは表面的には何も起こっていないように見えるが、現実的には重要な決定をしているという主張。

ex.多くの教員(特に駒場)が進振りは問題だと思っているが、他に良い案もなく全学の足並みもそろわないため新たな意志決定をしない=現状維持

ex.全会一致の原則

4. J.G.March & J.P.Olsen の「新制度論」

(1)着眼点

①行動主義の観点では、組織された制度を政治行動が繰り広げられる闘技場(arena)としか見ていない。組織された制度≠政治行動が繰り広げられる闘技場である。

②行動主義以前の伝統的政治学では、個人主義的モラル(合理的で独立した自由な市民)+多様な利益間の闘争を重視し、制度に具体化されている道德(morality)の基盤、価値観の基盤となる考え方を軽視。

ex.三権分立 …「常に権力は腐敗し暴走するから異なる三つの権力の間でバランスを取らせよう」という価値観がある。

ex.大統領制 …「意志決定は迅速で一元的であるのがよい。そのためには大統領制が良い」という価値観(道德)がある。

○現在(20 世紀末)の社会のより巨大で複雑な政治経済制度は多くの資源リソースをもつようになり、行動主義や伝統的政治学の考える一人一人の個人が持つ利益は現代でははるかに軽くなっている。そのような現代では自由な市民が切磋琢磨して政治が行われるというのは事実と反する。

→行動主義政治学の批判へ

(2)主流の政治科学(行動論的政治学や伝統的な批判主義的政治学を汲むそれ)にみられる 5 つの特徴 ←これを批判

①政治の従属性

- ・政治は外部要因に従属する。政治は社会の一部である。外部要因によって政治が決められる。
- ・行動論政治学では、社会学的や経済的立場によって **interest** が決まるとする。政治は社会的や経済的な利益を実現するための手段。

②方法論的個人主義

- ・集合行動(collective action)は個々のアクターの行動が市場で物を売り買いする時の様に相互作用した結果。個人個人の行動を集積したものが全体の結果を作ると考える。
- ・一人一人の行動を見れば政治を理解できるとする。

③合理的・功利主義的個人

- ・人々は **happiness** を求め、それが最大にする為に行動する。アクターの行動は利益に基づいて計算された意志決定。
- ・すべての人が、全てのアクターが自分の利益を把握し、それを実現するためにはどう行動したらよいか分かっており、そのために行動する完璧な功利主義者だと仮定。

→実際にはそうではない。人は利益に反した行動もする。

④機能主義(functionalism)

- ・歴史には一定の **efficiency** (能率性・効率性・合理性)があると考ええる。
- ・過去から妥当してきたものは現在や将来も妥当であり、価値や存在意義があるということが証明されている→古いものを大切にする

→二人はこれを批判、歴史を否定した議論を展開。

⑤実体だけに注目した結果論

- ・結果だけを重視し、その結果に影響のあった象徴、儀礼、儀式、神話などの要素、及び象徴が結果に与える影響を軽視。
- ・新制度論で後にこれを次ぐ人はいなかった。

(3)制度の定義

- ・制度…「規範(norm)、規則、(共通)理解、ルーティン」の集合体
- ・一定の集団の中にある共通理解…例えば、経産省の役人は、日本の経済を発展させるのは自分たちの使命であるという共通理解がある。

→行動主義では結果だけを重視したが、もう一方で結果を生み出したものに対してその結果が妥当だったかを考えるべき。結果の論理ではなく、その結果を出すための手続きが適切に行われたかどうかを重視する、適切性の論理(logic of appropriateness)。

※手続きが適切に行われれば結果も正しいものになるという前提あり。

5. 制度論の多様性

(0)規範的制度論 normative institutionalism

- ・伝統的政治学の制度論(三権分立、普通選挙など) + 現代の社会学や組織論
- ・制度は特定の価値(morality)を内在している点を強調。
- ・一定の価値を実現させるためのどのような制度を作るかというのが問題。

(1)合理(選択)的制度論 rational (choice) institutionalism cf. p4(012)

①個人による合理的選択を前提

- ・アローの提起した問題(合理的個人の collectivity の interest を実現することは可能か)を考える。
→「合理的選択論」とほぼ同じ。

②白紙状態 Tabula Rasa の仮説 (非歴史主義・反歴史主義)

- ・個人がある選択をするような誘因を組み込んだ制度は、白紙に絵を描くように 0 から作れる。
- ・そのことによって個人の選択や行動は比較的簡単に変えられる。
- ・制度や組織がたどってきた歴史には無関心。

ex. 日本の産業構造の変化に合わせて労働力の流動化を図る為に小泉政権が保護された労働者の権利を改めて労働力が動きやすいように制度を変えた。

→失敗。いろいろな歴史を捨てて新しい制度を白紙状態から作るのは難しい。

(2)歴史的制度論 historical institutionalism

- ・制度や政策は一定の価値を内在しているので、制度が形成されたり、新たな方針が採用されたりした時点でその政策はその後の政策に影響を及ぼす。

(3)経験主義的制度論 empirical institutionalism

○制度や政策が選択に対してどのような影響を与えたかをひたすら実証する。

①経験主義…複数の事例を比較

- ・例：大統領政府と議会制政府(英仏の経済政策の実行処理速度、その結果の経済成長率の比較)、議会における様々な制度、立法にかかわる様々な制度(議会の会期制・継続制で法案の成立度合いがどう違うか)、中央銀行制度(独立性の高い制度か、弱体な制度にするか)など。

②非理論的、非論理的との批判 cf. p36(315)

- ・システム・レベルでのデータ(ex. GNP 成長率、政治的暴動の発生件数)でシステムの比較は可能。
- ・システムを構成する要素(ex.経済政策や民主化の度合い)を評価するのは論理的に不可能。
- ・システム全体は複雑だから要素一つを変えてもシステム全体の成果に影響するかは不明。

※統計的手法を使用

- ・偏相関分析…数量変数について、ある変数を統制した(ある変数の影響を除去した)場合の二つの変数間の関係を分析する方法
- ・重回帰分析…一つの目的変数を複数の説明変数で予測する方法
→これらにより出てきた数字は事実ではなく推論に過ぎない。

6. 特徴と批判

(1)制度の重要性を強調

- ・結果の論理だと制度を批判するが、説明のみであり制度の現状に無批判(←適切性の論理)。
- ・逆に、制度を変えれば個人の(ものの考え方も含む)行動がすべて変えられるとする。
←制度が変わっても、ものの考え方が全面的に変わるわけではないのではないか。

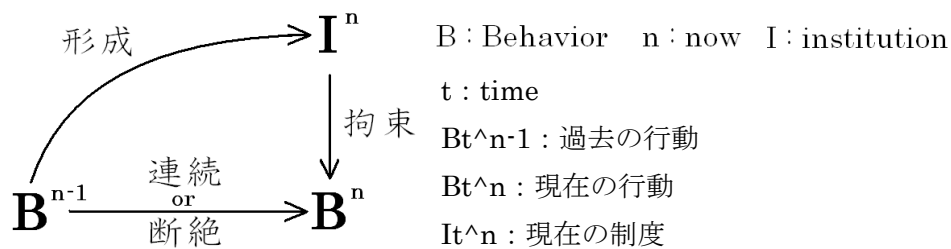
(2) 合理的個人の前提

- ・特に合理(選択)的制度論については、行動主義政治学と同様に合理的個人を前提とした欠点は是正されていない。
- 材料たる有権者が腐っているとは言えないというタブーがある。腐っていないかどうか、有権者自身が質を高めなければならないのではないか。

(3) 規範性の喪失

- ・規範的政治学と、多少なりとも行動主義政治学が持っていた規範性はほぼ失われている。
- ・バイアスを見てどうするかについては触れられない。March&Olsen の適切性の論理は保守的な現状肯定主義。
- ・現実に即したということは規範性を排除することなのだろうか？規範性を持ちながら現実に即した議論をすることも可能。

7. 行動主義と制度論の統合



- ・現在の制度は過去の行動に基づいて作られる。
- ・作られた制度は現在の行動を拘束する。
- ・基本的には「過去の行動」と「現在の行動」は連続するが、断絶がおきる場合もある。
- ・行動主義も制度論も対立するものではなく基本的には同じものを見ており、どこに視点を置くかの違いである。

第2節 政治システム(political system)理論…D.Easton

(1)源泉

- ・システム論…1940年代から現れた、新しいものの考え方。
- ex. 情報理論、人工知能、サイバネティックス、operation research

(2)政治システム論と政治社会

$$\mathbf{Sc} = \mathbf{f}(\mathbf{B1}, \mathbf{B2})$$

Sc : society(社会)

Bn : behavior(行動)

- ・社会は複数の行動の相互作用により成り立つ。
- ・数が少なく見えやすい役割に対し、行動は際限なく数が多く、行動のシステムはかなり抽象的。

1. 一般的なシステムの思考法

[参] 公文俊平「社会システム論」(日本経済新聞社、1978)

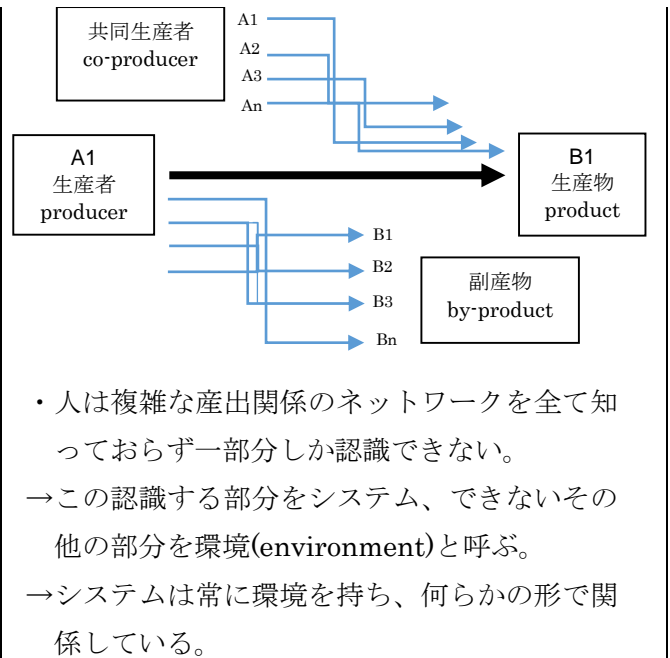
(1)科学一般(自然科学人文科学)に利用できる方法論

- ・システム論…すべての分野に応用できる方法論
- [公文によれば、]システム：主体が客体(何でもよい)を認識するための「形式」。
- 例えば政党を個々人の集合とみるか役割の集合とみるかというように、いくつかの形式で認識するのが可能。ものを見る時のレンズである。

(2)考え方の特徴 by R. L. Ackoff

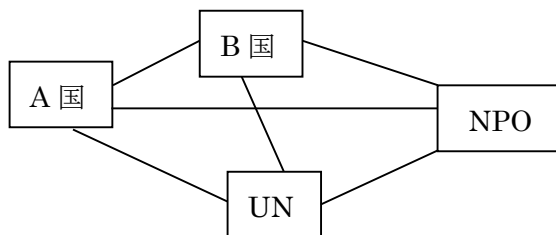
機械時代の考え方	システム時代の考え方
①還元主義 …ある問題は、それを構成する原子(atom)から成る。atomism 的。cf. p36(315) ex. 中学生の自殺を、教員・成育環境・性格・学校 etc.に還元して考える。 ・この考え方では、 社会学…個々の人間が社会を構成 →社会心理学に還元→行動科学→生化学 →物理化学→素粒子論と還元可能	①拡張主義 …ある問題はそれを含む全体の一部で、他の部分と何らかの関係を持つ。holism 的。 ex. 中学生の自殺を前期中等教育の問題の一環として考えるというように、より広い問題に照らし合わせて考える。 ・部分が全体と関連し、他の部分と切り離せないという性質 =システム性(systemness)
②分析的思考 …物事を構成部分に分割して考察。	②構成的思考 …問題をより大きな問題の一部として考察。より大きなものとの関連を見つけてゆく。
③機械論=還元主義的因果論 ・因果論…特定の原因があれば必ず特定の結果が発生する。C と R は一対一対応。 <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 10px;">C(原因)</div> <div style="flex-grow: 1; text-align: center;"> <div style="border-top: 1px solid black; width: 100%;"></div> <div style="position: relative; height: 10px;"> 必要十分条件 → </div> </div> <div style="margin-left: 10px;">R(結果)</div> </div>	③目的論 …物事を産出関係(production)として考える。 ・世の中を複雑な産出関係のネットワークとして考える。

- ・還元主義的因果論
…あらゆる物事は小さな因果関係の組み合わせにより成り立つ。
- ・機械論…人間や社会も因果関係の連鎖で成立。
→因果関係を操作すれば問題が解決できる。
- ・機械論の特徴
 - ①一定の条件の下で因果関係の法則を追求。
 - ②全てがその法則に従って動く。
→機械はそれ自体の目的を持たない
 - ③目的は「私(=主体)」が機械に与える。



2. システムの定義 …いくつかの定義がある。

(1)[定義 1]相互作用する諸要素(interacting elements)からなる複合体 (by L. V. Bertalanfy)



(2)[定義 2]一つまたは複数の入力を受け入れて、一つまたは複数の出力を生み出す装置

…国内政治で使われる



- ・箱の中身は問わない(blackbox)。
- ・自動販売機では、入力が金、出力が品物。自動販売機の中身は何でもよい。

第3節 構造—機能論(Structural-Functionalism) …G.A.Almond

(1)源泉

①文化人類学

- ・ 未開社会の文化の研究→未開社会には先進国と比べられる「要素それ自体＝実体」はない。
→「要素と要素の関係＝機能」を研究する機能論の立場をとる。

ex. ペンは実体で、その機能は字を書くことだが、ペンがなくとも字は書ける。

②WW2 後、アメリカ社会学の中で発達した機能—構造論

- ・ 一つの社会を昨日で抽象的に分析、どの社会にも当てはまる。

ex. T. parsons の AGIL 図式

- ・ 社会システムは比較的安定した機能の組み合わせによりなる。しかし、政治全体の中での機能は安定している。社会は比較的安定した機能、ひいては構造から成り立っている。

(2)機能＝構造論と政治社会

$$\text{Sc} = f(\text{Sr}, \text{Cl})$$

Sc = society (社会)

Sr = structure (構造)

Cl = culture (文化)

- ・ 社会は、構造とその背後に控える文化から成り立つ。

1. 政治システム

○政治システム＝政治構造＋政治文化

○システム：相互に関係する様々な要素の集合体

(1)政治構造(political structure)

- ①定義：政治システムを構成している「観察可能な行動＝相互に関連している役割(role)」の集合
 - ・ 具体的な行動というより、抽象化された役割が互いに関係して政治システムを構成する。
- ②説明：3つの段階に分けて説明される。
 - a. 全ての行動ではなく、機能として政治的な行動だけを考察対象とする。
 - b. この特定の種類の行動の総体を役割(role)と呼ぶ。
 - c. 政治システムとは、具体的な人間が果たす政治に関係する様々な役割の集合。

(2)政治文化(political culture)

- ①定義：実際の政治行動の背後にある心理的な性質
- ②説明：多面的な文化一般ではなく、政治に関する文化を指す。

ex. 日本 — 候補者が「あともう一步」だと劣勢を訴える(⇔米なら意味なし「じゃあ落ちるのか」)
票のために土下座をする(⇔米では crazy な行為)
→行動の背後にある政治文化の差がこの差異を生む。

③種類

a.政治態度(political attitude)：主体が何に注目するか

※態度とは心の志向性で何に関心を持かという意味。

ex. 米英では政治家のプライベートスキャンダルについては厳しいが、ラテン系の国では緩い。

b.政治信念(political belief)：主体が正しいことだと信じていること。c.政治価値より抽象的で幅広いもの。

ex. 一定以上の格差があってはならない or 自由競争によって生まれた格差は当然

c.政治価値(political value)：主体が抱く個々の価値観。b.政治信念より具体的で範囲が狭いもの。

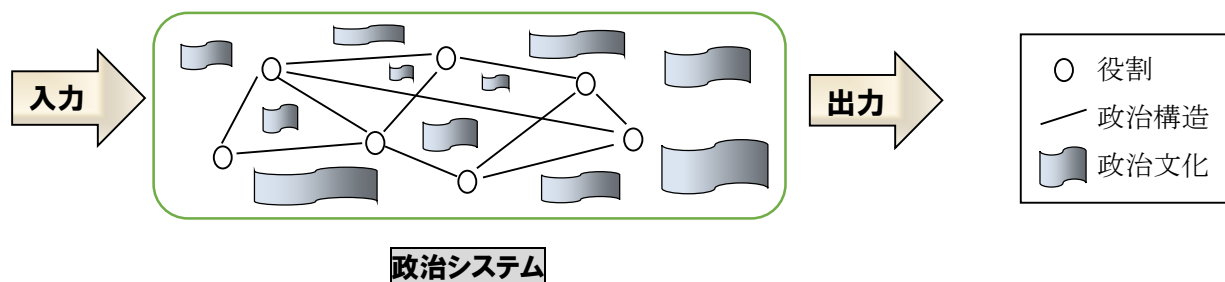
ex. 平等を進めることがより良い、競争を信じるか。どちらに価値を置くか。

d.政治技術(political skill)：受け取り手に良く受け取らせ、効果が現れるようにする技術や方法

ex.何をしゃべるか、どういう態度で人々の前に出るか。

(3)政治システム

・政治システムは様々な役割の集合である構造(structure)と、その背後にある文化(culture)から成立。



・スープが政治文化、麺が政治構造、全体が政治システムにたとえることができる。

2. 政治システムの機能

(1)入力機能(input function)

①政治的社会化と人員補充(political socialization and recruitment)

・政治的社会化(political socialization)

…幼年期～青年期に学校の授業などでどういう社会が良いかを教わり、社会の在り方のうち一定のものを選び取って自分の中に取り込む。

→子供の時から時間をかけて政治に関して社会化されてくる。その中で特定の考え方を身に着けていく。

・人員補充(political recruitment)

…ある時点で社会化を受けた人がレクルートメントを受ける。(ex.マルクスの読書会来ない?)

→特定の政治的方向に向け、新たな人材として政治組織などに登用される。

※これにひっかからない人もいる(ex.ノンポリ、支持政党なし)が、例えば環境汚染反対や原発反対の活動をするのは一種のリクルーメントを受けているといえる。

②利益表現(表出) (interest articulation)

articulation: 分節化→明瞭化、はっきりと述べること (cf. articulate)

- ・ 基本的には利益集団(interest group)が果たしている機能

- a. 定義: 政治に関する意志決定をする人々に対して表明される個人や集団からの様々な要求
- b. 方法 ※articulate したからといって支持を受けるとは限らない。

①物議的デモンストレーションと暴力 (ex.今のエジプト、暗殺、テロ)

②個人的コネクション (ex.血族(閥閥)、学閥、地縁)

③エリート代表

…特定の interest を持つ階層が、ある社会の中で選ばれた人達の中に人間を送り込む。

ex.戦前、地方の名士・富豪の子供や彼らの支援を受けた地元の秀才が東大に入る。

→エリートとして活躍し、自分たちの interest が彼らエリートを通じて実現される。

(その他にも国会議員、高級官僚、地方議員など)

④制度的チャネルと公的チャネル

channel: a way of expressing ideas and feelings

- ・ 制度的チャネル…プライベートであるが確立されたチャネル (ex.マス・メディア)

- ・ 公的チャネル…政府の公聴会、国会議員への陳情、国会への請願など。

(ex.政党、議会、官僚組織)

③利益集約(interest aggregation)

- ・ 主として、第一段階で政党、その後では官僚組織が果たしている機能。

- a. 定義: 政治に関する様々な意見・要求を具体的政策へとまとめ上げる機能

- b. スタイル(スタイル…機能を果たす特徴的なやり方)

①実利=取引スタイル…多様な interest を、市場で売買するかのように取引して整理する。

ex.「私に票をくれればトンネルを作る」

②絶対価値志向スタイル…①と正反対。様々な interest をイデオロギーや世界観に還元。

ex. 土井たか子「ダメなものはダメ」。理念を重んじそれを絶対視する。

③伝統的スタイル: 過去と同じように多様な利益を取り扱う。

ex.「昔からやってきたから同様にやっ払いこう」という考え方。

(2)出力機能(output function)

①規則制定機能(the rule-making function) …政治システムの規則を作る機能

ex. 議会による法律の制定、官僚組織による行政命令作成

②規則適用機能(the rule-application function) …実際に規則を適用、行使する機能

ex. 官僚組織による行政

③規則判定機能(the rule-adjudication function) …制定された規則が守られない場合に判定する機能

※大きく考えれば②に含まれるが、組織が特殊で独立しているため別立てにしている。

ex. 官僚組織とは独立した裁判所が果たす機能

(3)通信機能(communication function)

- ・ 6つの入力機能(3つ)と出力機能(3つ)は、すべて通信という手段によって果たされる。

3. 特徴と批判

(1)機能主義

①[批判]機能を前提とする機能主義

→ある制度が機能していない、と断言することは難しいため、一種の均衡論に陥りやすく、現状肯定の理論になりやすい。

②[特徴] Almond は Easton が Black Box としてのシステム内部(構造+文化)を説明した。

○Almond の理論は Easton と違い具体的で詳しいので現実の分析をするときに使いやすい。Toolbox として有用。

(2)政治文化の概念

・政治システム＝政治構造＋政治文化

①[特徴]様々な政治システムを、機能的には同質な「政治構造」と、多様な形をとる「政治文化」に分けることで、政治システム間の比較が可能になった。

→システムは役割の連関だから基本的にはどの国を比べても似たようなものがある。

(ex. A では独裁者の果たす役割を B では大統領と議会が果たす)

→比較政治論の発達に貢献。

②[特徴]政治文化という概念と、政治文化論という学問分野を初めて作った。

③[批判]政治文化というのは背後にある文化的特質というかなり曖昧な概念(政治構造は目に見える具体的役割)

⇒Almond 「政治文化は**残余類型(residual category)**である」

…政治文化は政治構造以外をすべて寄せ集めた概念。類型化し得ないものの余り。政治文化とは残り物として政治の難しさを押しつけられた概念。

⇒政治構造は同質だから、政治の差異はすべて政治文化に帰着させられてしまう。それだけでよいのだろうか？

4. [付録](広義の)比較政治論におけるいくつかの発見

(1)Consociational Democracy(多極共存型デモクラシー[ブリタニカ, 2009])

・オランダやベルギーでは柱状組織(zuyl)のエリートの間で和解・調停(accommodation)が行われた。

・カトリック/プロテスタント、資本家/労働者などの歴史的に形成された集団である柱状組織が存在。

→多数決だと少数派の集団が多数派に疎外されてしまう。

→議会が委員会を作り、そこに各柱状組織の代表を集めて折り合いをつける。

⇐英米だとエリート内の取引だとして批判される。

※オランダは 20 世紀の終わりになるとこの傾向が弱まり、英米型の民主主義になりつつある。

※組閣が難しくなる。選挙の結果小党分立になり、政界のボスが各党に組閣の相談を行い、首相や閣僚を決める。うまくいかないと数か月間内閣が出来ないこともよくある。

(2)Neocorporatism

- ・主に北欧などの小国では、政府・労働組合・経営者団体という 3 つの団体の協調で政治が行われる。
- ・中南米…軍隊・カトリック教会・労働組合の 3 つの団体の協調で政治が行われる。
- ・中世ヨーロッパは個人が重視されない団体主義の社会で、中世を corporatism の社会とし、現在にある corporatism を neocorporatism という。

(3)開発独裁(developmental dictatorship)

- ・戦間期のドイツやイタリアのファシズム独裁とはやや違う形での独裁。
- ・経済発展のためには、不安を招き易い市民の参加を制限して、政治的安定や一元的な意志決定が必要であると主張。

ex. 韓国の朴正熙、現在のシンガポール

~~~~~第5章 講義を終わるにあたって~~~~~

1. なぜ政治理論か？

(1)「政治学」＝政治学の基礎知識を教える講義

「政治理論」＝政治を理論的に考察する学問

⇒採り上げられるテーマは、[伝統的]国家、権力 etc. [現代的]政党、圧力集団 etc.

教養の政治学では、政治学の基礎知識を入れるのが普通。

(2)大抵のテキストでは以下の三点について全く触れられていない。

①暗黙の前提とする考え方

②歴史的・社会的背景

③理論それ自体の論理構造

⇒ただ既成の知識を覚えるだけでは、世の変化は速いため、知識をこれらと切り離して教えるのは役に立たず、場合によってはむしろ害になる。

(3)基礎知識といえども、一つの相対的な考え方ではない。

①一定の歴史的・社会的背景

②一定の考え方が暗黙の前提

③理論の意味はその理論の構造の中に位置づけて初めて明確になる。

(4)この講義では他ではやっていない次の二つのことをした。

①現代の多様な支持理論を統一的に整理。

②科学的理論を、政治哲学や政治原理と一括して取り扱う。

→政治理論の学問的地図(カタログ)、主に米の現代政治学理論の知識社会学的分析

2. 科学的理論の本質 [参]P.K.ファイヤーベント「方法への挑戦」(新曜社)

(1)どんな理論でも現実(我々が経験する事実の総体。他人の経験も受け入れる場合がある)の一部分しか説明できない。

※[冗談]全ての現実を説明する三つの方法

①全ては偶然

②全ては神の御業

③陰謀説(ex.全てはコミンテルンの陰謀)

(2)観察は客観的なものではなく、理論や方法で限界づけられている。

我々は理論に基づいて観察している。

science は堂々巡り、理論が変わるのはそれまでの理論では考えられな

ような前提をおいたり外したり一種の飛躍をする事によってのみである。

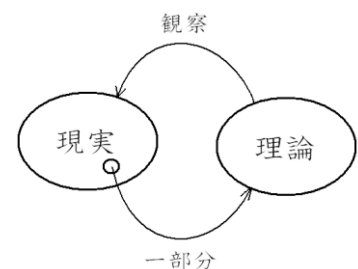
(3)理論はそれが正しいから、「真理」だから人々に認められる訳ではない。

・成功した理論というのは存在する。その理論が成功するには、①②をうまく混合させること。

①対抗理論の排除

②経験的内容の減少(理論の防御を高める)

・現実から切り取る部分を小さくすればよい。



ex.論文：「世界の大学生の生活」

- 「アフガニスタンの大学生は…」と反例をあげることが出来るため防御が甘い。
- 切り取る現実を小さくし、「東アジアの大学生の生活と意見」
- まだ反論可能。「いやいや、中国の大学生は…」
- さらに対象を小さくし、日本、東京、東京大学、駒場…
- 「私の知っている数人の大学生の理論」これは防御完璧だがまったく面白くない。

3. 理論の相対化に向けて

- (1)暗黙の前提に注目する。
 - (2)理論をその歴史的・思想的背景の中で理解する。
 - (3)理論が適用できる限界を知らなければならない。対象に応じて適宜それに一番適用できる理論を選び物事を解釈することも大切。
- ただし、相対化にも限界がある→「集合的」価値は序列化できても相対化できない。

[付録]夏休みに読みたい現代の名著：省略

あなた方の置かれている状況は我々のころに比べて厳しい。エリート叩きはひどく、弁護士になっても職にあぶれ、公務員も給料を減らされ天下りも廃止されている。ただ、当時も順風満帆な人生を送っているわけでもない。人生はそんなに簡単に楽な道はない。将来も山あり谷ありだと思いが、自分たちはエリートであるという自覚を持ってほしい。自覚を持つというのは特権を欲しがったり甘い汁を吸ったりするということではない。エリートであるというプライドは、エリートではない人々の心や状況等を思いやることであると思う。選ばれたということは義務を背負ったということであり、人々のために尽くしてエリートとしてのプライドを持ち続けてほしい。